

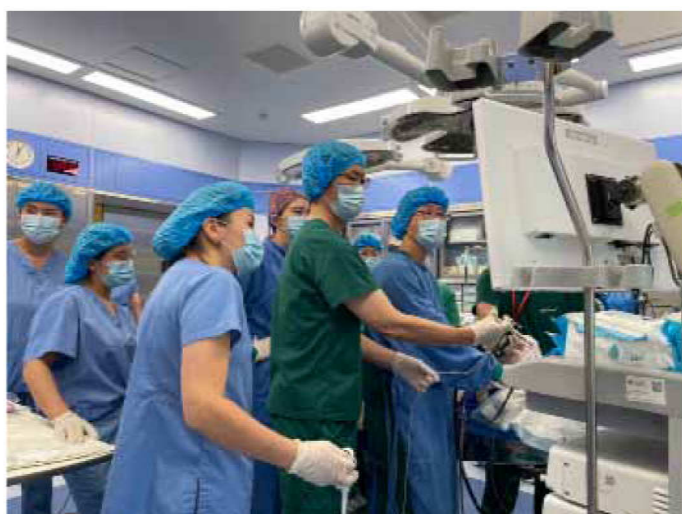
2023 年度

AMDA 年次報告書

2023.4.1 ~ 2024.3.31



令和 6 年能登半島地震被災者緊急支援活動



2023年度も、国内外で大規模な自然災害や心を痛めるような出来事が多く発生しました。2022年2月に発生したウクライナ人道危機は長期化し、未だに収束の兆しが見えません。

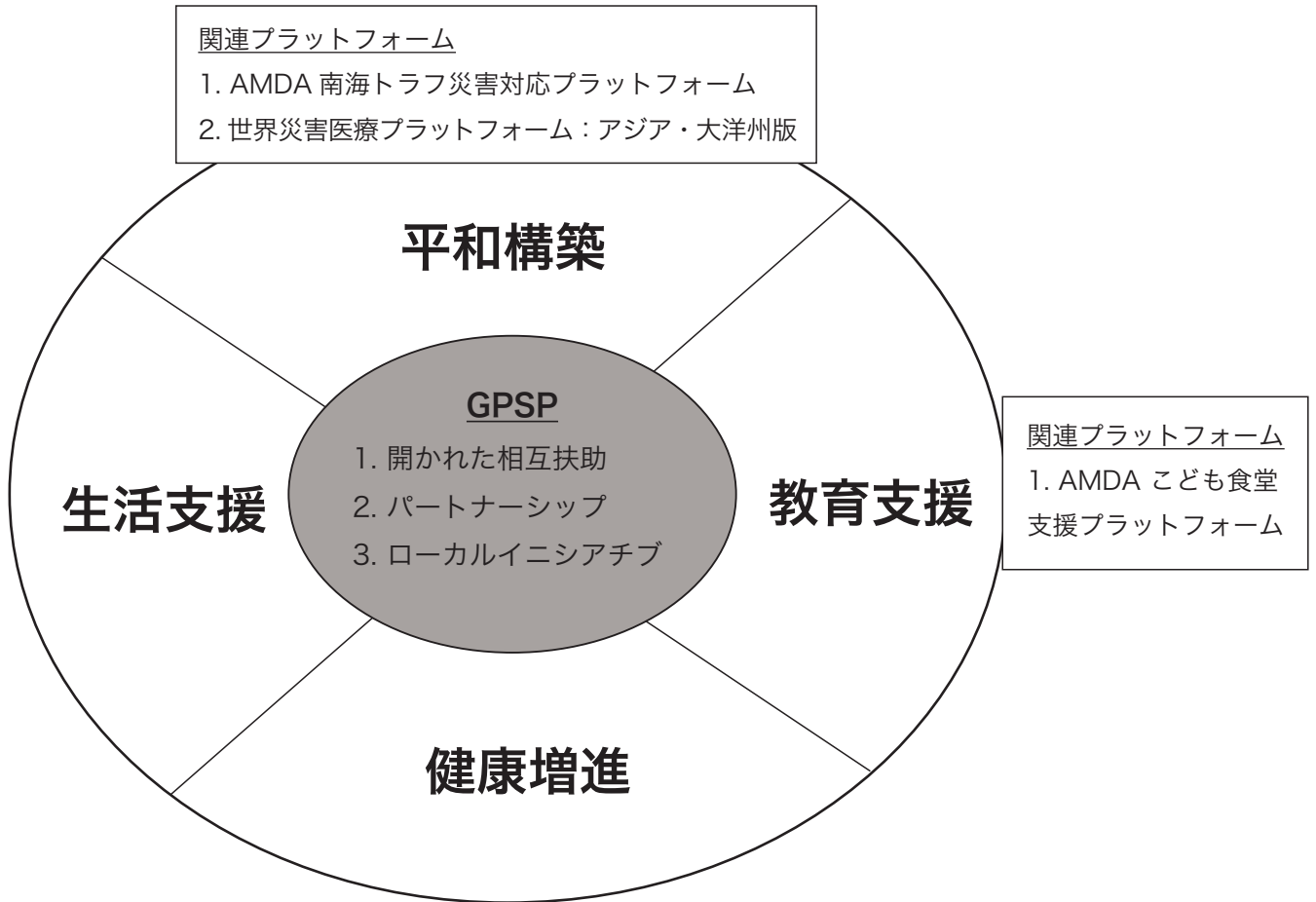
AMDAは、ウクライナとハンガリーの4つの現地協力団体と共に、医療支援や物資・食糧支援を継続して行っています。また、モロッコ地震の緊急救援活動、トルコ地震に対する復興支援、モンゴルでの内視鏡技術移転事業など、「相互扶助」の精神のもと、幅広く活動を展開してまいりました。

国内では、2024年1月に発生した「令和6年能登半島地震」において、発災直後から被害状況の調査を開始し、AMDA医療チームは輪島市立輪島中学校の保健室に救護所を設置し、2月3日まで緊急救援活動を行いました。避難所での医療支援は輪島市に一本化され、AMDAは診療以外の支援へと移行しました。被災地の復興は着実に進んでいるものの、長く険しい道のりであることは誰が見ても明らかです。AMDAはこれからも、被災地に寄り添いながら支援を続けてまいります。

これまでAMDAの活動にご支援いただいた皆様に、改めて心より感謝申し上げます。

尚、2023年12月18日の理事会を持ちまして、認定特定非営利活動法人アムダ理事長 菅波茂は辞任し、後任の理事長には医師 佐藤拓史が就任いたしました。また、理事長の交代に伴い、副理事長は菅波知子から難波妙が就任いたしました。今後とも相変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

(本年年次報告書におきましては事業実施当時の肩書で表記致しております。)



GPSP プログラム分類表

平和構築分野	健康増進分野	教育支援分野	生活支援分野
①緊急支援	①プライマリーヘルスケア事業	①グローバル人財育成事業	①有機農業事業
②復興支援	②医療技術移転事業	②こども食堂支援プラットフォーム	
③災害対応プラットフォーム a) 南海トラフ災害対応プラットフォーム b) 災害鍼灸 c) 災害医療機動チーム	③医療支援事業		
④世界災害医療プラットフォーム	④友好病院事業		

*** プライマリーヘルスケア (AMDAの考える定義) :**
 貧困の環境下での健康増進を目的とし、以下3種類の活動を含むものが望ましい。
 ①住民参加
 ②知識を広める活動
 ③社会的及び経済的改善に向けての活動

目次

平和構築	
活動写真	3
1. 緊急支援活動	7
ウクライナ人道支援活動	
フィリピン・カビテ市火災被災者支援活動	
スーダン病院支援	
モロッコ地震被災者緊急支援活動	
西ネパール地震被災者支援	
令和6年能登半島地震被災者緊急支援活動	
2. 復興支援活動	14
東日本大震災復興支援活動	
トルコ地震被災者復興支援活動	
インド・ブッダガヤ市場火災被災者支援事業	
パキスタン洪水被災者復興支援活動	
ハイチ・国内避難民キャンプ医療支援活動	
3. 南海トラフ災害対応プラットフォーム	18
4. その他	20
出版「30 years of AMDA Nepal 1991 to 2021」	
大使館訪問	
健康増進	
活動写真	21
1. プライマリーヘルスケア事業	23
インド・ブッダガヤ AMDA ピースクリニック母子保健事業	
カンボジア・青少年のリプロダクティブヘルスに関する青少年フォーラムほか	
フィリピン地元住民健康支援事業	
2. 医療技術移転事業	24
モンゴル内視鏡技術研修	
モンゴル救命救急研修	
3. 友好病院事業	26
アフガニスタン、ネパール、バングラデシュ、モンゴル	
ネパール・ブトワール市長及び AMDA 現地関係者来日	
ネパール子ども病院 25 周年式典及びプラシッダ プラワル	
ジャナセワシュリー勲章の伝達式	
教育支援	
活動写真	30
1. グローバル人財育成事業	32
AMDA 中学高校生会	
2023 年度 AMDA 兵庫ネパール研修	
2. こども食堂支援プラットフォーム	34
3. その他	35
インド・ブッダガヤで現地の NGO 学校への支援	
生活支援	
1. 有機農業事業	36
マリノ・フードプログラム	
2. その他	36
インド・ブッダガヤ「お年寄りの家」への支援	
インド・ブッダガヤでの食事支援	
インド・ブッダガヤ井戸建設事業	
連携協力協定調印	
団体概要	
AMDA 役員	
国内の動き	
会計資料	

平和構築

緊急支援活動

ウクライナ 人道支援活動



食糧支援の様子
(セントミッシェル小児総合リハビリセンター)



パンを持った子どもたち
(セントミッシェル小児総合リハビリセンター)



抗がん剤の提供
(ダイナスティメディカルセンター)



病院へ配布する医薬品 (ヴァルダ伝統文化協会)



プレゼントをもらう子どもたち (メドスポット)

平和構築

健康増進

教育支援

生活支援

フィリピン・カビテ市火災被災者支援活動

スーダン病院支援



診察の様子



病院の様子

モロッコ地震被災者緊急支援活動



避難者と会話をする AMDA 看護師



編み物を学ぶ女性

西ネパール地震被災者支援



診察をサポートする看護師



地震被災者用の支援物資

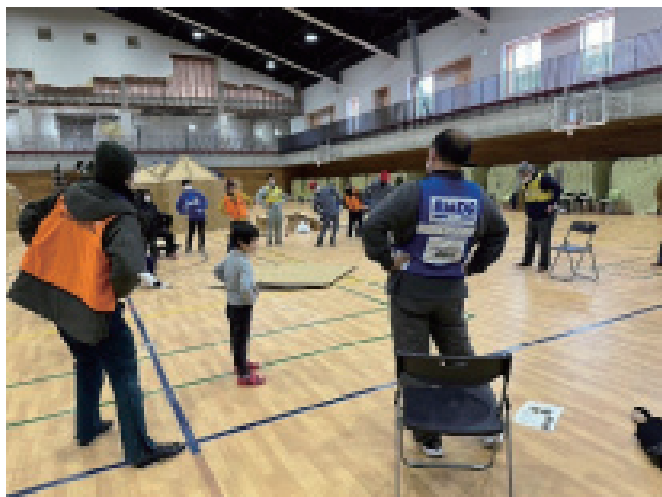
平和構築

健康増進

教育支援

生活支援

令和6年能登半島地震被災者緊急支援活動



理学療法士による健康体操を実施



救護所での診療の様子



感染エリアの重症患者を搬送



毎朝の巡回診療に向かう AMDA 医療チーム

復興支援活動

東日本大震災復興支援活動



復興グルメ F-1 大会 (南三陸)



ホームレスを対象とした炊き出し (仙台)

平和構築

健康増進

教育支援

生活支援

インド・ブダガヤ市場火災 被災者支援事業



火災現場を訪問する菅波理事長



復興後の市場の様子

パキスタン洪水被災者復興支援活動



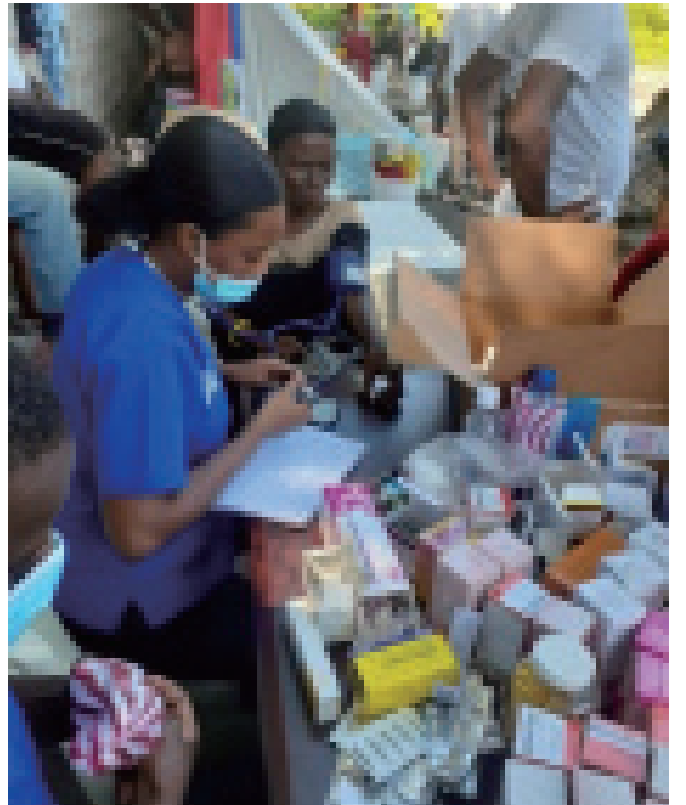
診療所の待合室

トルコ地震被災者復興支援活動



子どもたちの心のケアに取り組む精神科医

ハイチ国内避難民キャンプ医療支援活動



パルトーランス市の避難民キャンプ
で暮らす人々への、診察と薬の提供

平和構築

健康増進

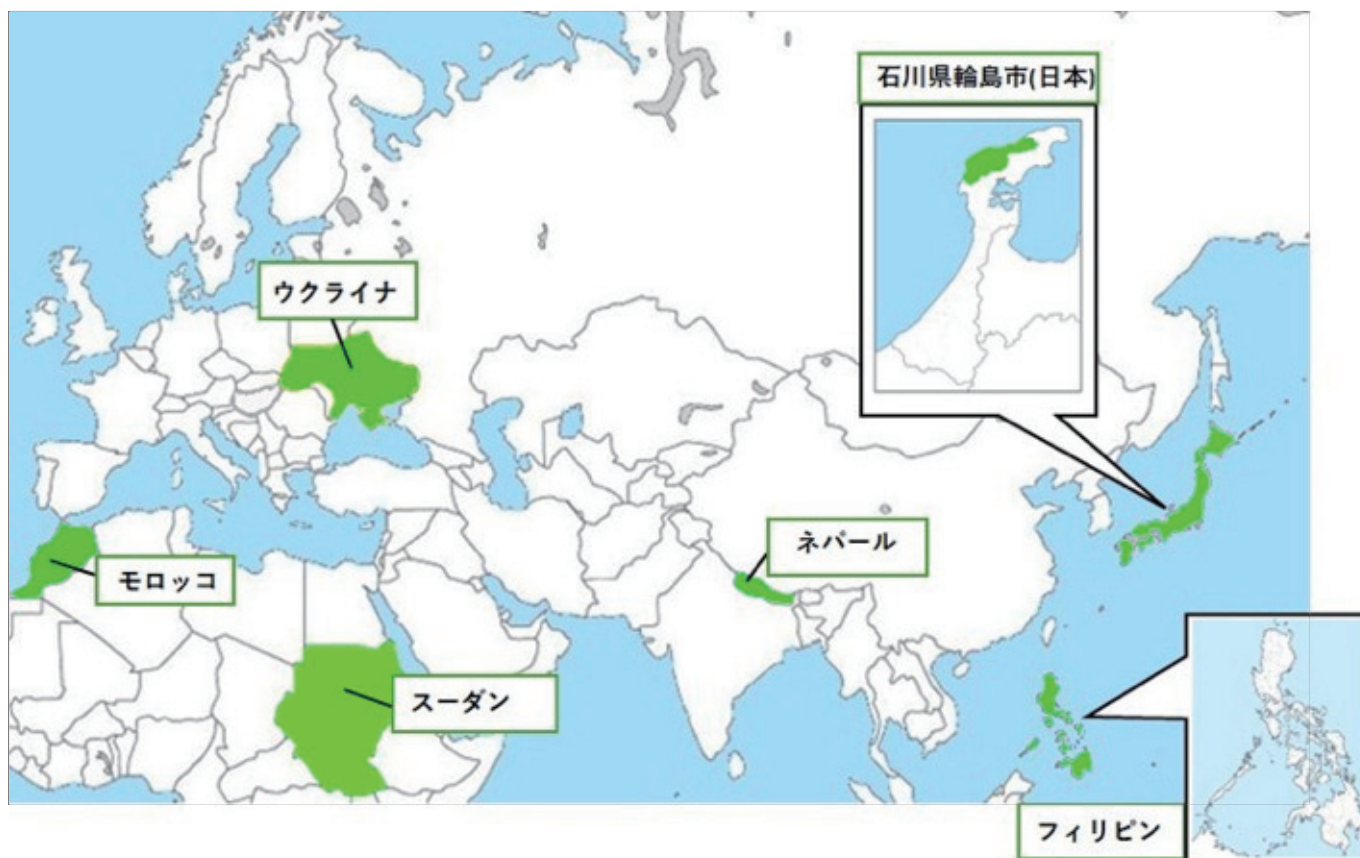
教育支援

生活支援

1 緊急支援活動

【時系列一覧】

支援活動	活動期間	活動実施地域
ウクライナ人道支援活動	22/3/7～継続中	ウクライナ（ザカルパチア州・ハルキウ）
フィリピン・カビテ市 火災被災者支援活動	23/5/7	カビテ市
スーダン病院支援	23/5/25～継続中	ハルツーム・イーストナイル
モロッコ地震被災者緊急支援活動	23/9/13～28	モロッコ（マラケッシュ、タハナウト、 オカймデン、ティジウッサム、アヌドゥール、 エイト・モーレイ・アリ）
西ネパール地震被災者支援	23/11/9～11	ジャージアルコート郡ナルガド市、ルクム郡 アトビスコト市
令和6年能登半島地震 被災者緊急支援活動	24/1/2～継続中	石川県輪島市



■ウクライナ人道支援活動

◇実施場所： ウクライナ（ザカルパチア州・ハルキウ）

◇実施期間： 2022年3月7日～継続中

◇派遣者（派遣順）： 難波妙 / 調整員 / AMDA 理事、榎田 倫道 / 看護師（日本・オランダ資格）

◇現地協力団体： ウクライナ / セントミッシェル小児総合リハビリセンター、ダイナスティメディカルセンター
ハンガリー / ヴァルダ伝統文化協会、メドスポット

◇受益者数： ウクライナ（セントミッシェル小児総合リハビリセンター 836人、ダイナスティメディカルセンター 2,842人）、ハンガリー（ヴァルダ伝統文化協会 19,270人、メドスポット 2,106人）

◇受益者の声：

「この支援にとっても感謝している。これは、暗い時代の奇跡のようなものである。」

◇事業内容：

2022年2月下旬のウクライナの人道危機により、2023年1月の時点で1,800万人が自分や家族を守るため周辺国に避難した。AMDAは2022年3月7日より避難者が避難する隣国ハンガリーでニーズ調査を開始。3月9日よりAMDA・TICO合同医療チームを結成し医療支援開始。10月までに合計14人をハンガリーへ派遣し支援活動を行った。10月15日より調整員2人を派遣し、現地主導で支援が行えるように調整、現地協力団体主導のもと支援を継続している状況である。尚、この活動は2023年3月15日より1年間、外務省の日本NGO連携無償資金協力事業としても採択され、ウクライナでの医薬品を含む物資支援などに充てられた。

① セントミッシェル小児総合リハビリセンター

ウクライナ西部のザカルパチア州ウジホロドに位置する、セントミッシェル小児総合リハビリセンターでは200人以上の子どもたちが継続的にリハビリを行っており、1日あたり20人程度の子どもたちに歯科治療、アクアセラピー、言語療法、ホースセラピーなどを行っている。

1) 医療支援

近隣病院からの要請を受け、がんの患者に対して医薬品の支援を行っている。ウクライナでは人道危機の発生以来、物価が非常に高騰しており、小さな子どもがいる家庭や年金生活者の家計を圧迫している。中でも医薬品は非常に高価なため継続してがん治療が行えるよう、医薬品の支援を行っている。卵巣がん、肺がん、乳がんなどの症状のある患者31人の方の支援を行った。患者の中には、避難した直後にがんと診断された方、人道危機のために1人で2人の子どもを見ながら闘病する方もいる。「命を救う活動をしてくれたAMDAに非常に感謝している。ありがとう」と涙ながらに話した。

2) 食糧・物資支援

地元の教会や、児童養護施設、慈善団体からの要請を受け、その都度必要とされる物資の支援をおこなった。子どもたちに対して、下着、防寒具などの衣料品や、教会へ避難してきた家族に対してパンなどの食糧、小さな子どもがいる家族に対しては、ベビーフードや紙おむつも定期的に配布した。

また、小規模病院からの依頼をうけベッドリネンとベッドカバーも提供した。

3) その他の支援

200人以上の子どもたちが継続的にリハビリを行っており、精神面での治療を必要とする子どもたちも訪れるため同センターでは、温かい雰囲気迎え入れることを大切にしている。しかし、病院の運営資金の80%は寄付で賄われており、長引くインフレに加え、冬はウクライナの厳しい寒さを乗り越えるための光熱費がセンターの運営を圧迫していた。そのため、センターの光熱費に対してもAMDAの資金が活用された。



② ダイナステイメディカルセンター

ウクライナ東部ハルキウにあるダイナステイメディカルセンターは、耳鼻咽喉科を専門とし手術時間が2時間を超える手術なども行っている。その他にもS状結腸疾患のある患者に対して術後のケアなども行っている。

1) 医療支援

近隣病院からの依頼を受け、2人のS状結腸癌患者に対しての術後のケアを継続して行った。患者の1人は、小さな子どもを持つ母親で、投薬が彼女にとっての唯一の治療法だが、この治療を続けるための資金がなかった。そのため今回の治療に対して、「生きる望みを与えてくれた、AMDAと日本の人々へ感謝している」と話した。

その他にも、ハルキウに避難してきた方々に対して無料の診療と医薬品の提供を定期的に行った。診察では、慢性および急性副鼻腔炎、扁桃周囲膿瘍、中耳炎などがみられた。また、中耳炎の他、鼻中隔湾曲症、アデノイド炎の患者に対しては、手術時間が2時間を超える手術を月平均35人に行っており、そこで使用される麻酔薬にもAMDAの資金が活用された。物価が50%以上も上昇しているウクライナの住民への経済的負担は大きく、手術に手が出せない方も多くいた。支援によって手術が可能になっただけでなく、質の高い麻酔薬を使用することで生活や仕事にすぐに復帰できるようになったという。AMDAの支援に対して、「手術したことで、呼吸と聴覚が改善され、生活の質が上がった。」と話した。また手術を行った病院関係者からも、「ウクライナの人々に最高の医療サービスを提供できることに感謝しています。」と声が寄せられた。

③ ヴァルダ伝統文化協会

ハンガリーのキッシュヴァルダに拠点を置くヴァルダ伝統文化協会は、地域の福祉施設と連携し、ニーズに応じた物資・食糧支援を行っている。

1) 医療支援

3つの病院、老人ホーム、児童福祉施設と連携し医薬品の配布を行った。これらの施設では、必要最低限の薬も不足していたため、国民は非常に困難な状況に追い込まれていた。特に冬の期間は避難者を受け入れている施設にとっては、非常に困難な時期である。避難者はいまだに多くの方が同じ部屋で暮らしている。その上、栄養不足や、ビタミン不足、心理的不安などからインフルエンザなどの感染症はシェルター内ですぐに感染してしまう。そのため冬は特に多くの薬が必要であった。



2) 食糧・物資支援

3つの病院、4つの学校、3つの児童福祉施設に対して定期的に食糧と衛生キットなどの配布を行った。ベレホフ地域では、子どもを連れて避難してきた母親が多く、子どもたちが定期的に行うキャンプで炊き出しの支援も行い、1回で約720食の昼食を配布した。

その他にも、10月からは教会の依頼を受け、若者が国外に避難し高齢者が多く残されている村への食糧配布も開始。インフレの影響で、年金は光熱費にしか充てられないうえ、若者が村を離れたために農作業をする人がおらず、食糧の備蓄は底をついた。支援活動に参加するメンバーは、「人道危機の終息の兆しはまだ見えず、海外からの寄付がなければこの支援は不可能です。このような支援を続けることは、私たちの義務だと信じています」と述べている。

④ メドスポット

ハンガリーの首都ブダペストに拠点を置く医療者団体メドスポットは、主にウクライナ西部ウジホロドでの医療面での支援活動を行っている。その他にも、ウクライナ国内の2つの団体と協力し、ウクライナ東部ハルキウ州やドネツク州へも精神的ケア、医薬品、その他の医療物品の提供も行った。

1) 医療支援

シェルターなどで行う、避難者に対する無料の診療では、インフルエンザや糖尿病、高血圧といった生活習慣病のほか、不安障害、睡眠障害、PTSD、慢性的な痛みや震えといった人道危機の影響と思われる症状も多く見られた。支援に参

加した医師は、「医学的および心理的支援が引き続き必要だ」と報告している。ウジホロドのシェルターでは、12月のクリスマスには子どもたちにプレゼントを配布した。子どもたちの喜ぶ姿を見て、人道危機が一刻も早く終わることの重要性を改めて感じたという。

■フィリピン・カビテ市火災被災者支援活動

◇実施場所： カビテ市

◇実施日： 2023年5月7日

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成

AMDA フィリピン支部、フィリピン医学生協議会（PMSA）、パラニャーケファイニスト 101 ライオンズクラブ、フィリピン産業医学会（PCOM）マカティ支部及びラグーナ支部

◇受益者数： 3,360人

◇受益者の声（AMDA フィリピン支部 エルレイ・ナバロ支部長）：

「今回、AMDA フィリピン支部とAMDA 本部はコミュニティへの支援を行いました。ご協力者とのパートナーシップを通じて、災害時であっても『誰一人取り残さない』という、フィリピン人の「助け合いの精神」は、心の中で息づいていることが再び、証明されました。学生ボランティアは、活動の中に幸福感を見出し、被災者は、大変な時に見返りを求めず支援をしてくださる人たちがいることを知り、恵みを感じていました。今回の活動に多大なご尽力とご支援いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。」

◇事業内容

4月26日、フィリピンの首都マニラの南西に位置するカビテ市にて発生した大規模な火災を受け、AMDA フィリピン支部は地元の医師と連絡をとり、情報収集を行った。

4月29日、約1,000世帯が被災し、多くの避難者が同市内の小学校に避難していると、AMDA 本部に同支部より連絡があった。AMDA 本部と同支部合同での支援活動を念頭に、5月1日、AMDA フィリピン支部副支部長（医師）らが避難所などに入り、ニーズ調査を行った。

5月7日、避難所となっている小学校にて、「カビテ市で助け合おう（Bayanihan sa Cavite）」と題し、医療支援および子ども達への支援活動を実施した。合計24人（AMDA フィリピン支部長および副支部長を含む医師14人、看護師3人、薬剤師1人、学生などのボランティア6人）が参加し、合計1,089人の無料診察および子ども達へのメンタルケアとして、ぬり絵やゲームを一緒に行った。

高血圧、糖尿病、関節リウマチなどの持病を持つ方々より、体調などを診て欲しいという声が多く、必要に応じて薬やビタミン剤が提供された。また、今後の生活の再建に関する不安や、長い避難生活による感染症蔓延への懸念などを訴えられる方もいた。子ども達の中には、呼吸器感染や湿疹、アレルギーなどの症状が見られた。また、今回の診察活動中に見つかった結核の疑いのある方を地元の保健所に繋げることもできた。



■スーダン病院支援

◇実施場所： ハルツーム・イーストナイル

◇実施期間： 2023年5月25日～継続中

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成： AMDA スーダン支部

◇受益者数： 10,000人以上

◇事業内容：

北アフリカに位置するスーダンでは、2023年4月に武力衝突が始まり、収まる兆しすらみえておらず、首都などで断続的に戦闘が続いており、800万人以上が住む場所を迫られている（2024年4月16日 NHK）。AMDAは、元駐日スーダン共和国特命全権大使、ムサ・モハメッド・オマル閣下のご協力の下、スーダン首都のハルツームにおいて、アッサイダウーマンエンパワーメントセンターとキドニー（腎臓）クリニックを中心とした支援活動を行った。アッサイダウーマンエンパワーメントセンターにおいては、手芸、編み物・縫い物活動、食品製造、パン菓子・パン製造、子どもの健康ケア、応急手当などを提供し、40台の透析装置があるキドニークリニックにおいては、無料の医療サービスを提供した。また、内戦による深刻な被害を受けたハルツーム・イーストナイル地区内10カ所においては、地元住民に対する食糧支援も行った。



■モロッコ地震被災者緊急支援活動

◇実施場所： マラケッシュ、タハナウト、オカイムデン、ティジウッサム、アヌドゥール、エイト・モーレイ・アリ

◇実施期間： 2023年9月13日～28日

◇派遣者： 藤本智子 /AMDA 緊急救援ネットワーク登録メンバー、萩野祥子 /AMDA 緊急救援ネットワーク登録メンバー

◇現地協力団体（活動順）： シーファ・ファウンデーション

◇受益者数： 大人820人、子ども270人

◇事業内容：

現地時間2023年9月8日午後11時にモロッコ・マラケッシュから南西70キロメートルにあるハウズ州（アトラス山脈のある山岳地帯）を震源とするM6.8の地震が発生。国際連合人道問題調整事務所によると2,946人が死亡し、5,674人以上が負傷。38万人以上が被災している。（9月14日時点）



AMDAは9月13日にAMDA医療チーム（看護師2人）を現地へ派遣。モロッコ政府の方針により単独での支援活動をすることを決定。国際保健を専門とするモロッコのNGO Shifaa Foundation（シーファ ファウンデーション）とともに活動を行った。

① 現地協力団体と共に巡回診療を実施

現地協力団体の医師ら最大15人と共に、7カ所の村で巡回診療を実施。村へは、拠点としていたマラケッシュからは平均3～4時間の移動を伴った。山岳地帯のため道路状況が悪い上、地震による崩落の影響で迂回を余儀なくされる場面もあった。巡回診療では、地震発生から1週間が経過していたこともあり、緊急手当でのその後の対応が中心となっていた。村の保育所で実施された健診、傷病対応では、主に血圧測定と処方薬を渡す作業を担当。活動場所へは、地域の子どもたちが集まり楽しそうに絵を描く姿も見られたが、子どもたちが描いた絵を見ると地震で倒壊した建物や傷を負った人を描いている子どももあり、同行していた精神科医とともに子どもたちのメンタルケアの必要性を感じた。避難テントにて実施された健診、傷病対応では、主に血圧測定と外傷処置を担当。整形外科を専門とするチームも同行していたため、ギブスの作成や再固定をスムーズに行うことができた。テントまで移動することが難しい高齢者らの対応として、車で移動して巡回診療も実施した。壁が崩れヒビが入っているなど半壊状態の建物が多くみられた一方で、精神科医によるケアや、建築による生活再建など、日常を取り戻すための活動は着々と進められている様子だった。

② 物資の仕分け作業

マラケッシュ空港近くに建てられた巨大な倉庫にて国内外から届く支援物資の仕分け作業に参加。薬に関しては使用期限が切れていないかを確認し、今年中の期限のものは先に渡すことができるようチェックを入れ、抗生剤や解熱剤などカテゴリー毎に棚に保管した。衛生物品は同じくガーゼや消毒薬など物品ごとに仕分けし置き場所を決め整理した。

■西ネパール地震被災者支援

◇実施場所： ジャージョルコート郡ナルガド市 11 地区、ルクム郡アトビスコト市 11 地区

◇実施日： 2023 年 11 月 9 日～ 11 日

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成

AMDA ネパール支部調整員ウメス・プロサド・アチャルヤ氏

◇受益者数： 物資支援 約 100 世帯

◇受益者の声：

「ここまで来て、支援物資を渡していただき、嬉しいです。ありがとうございます」

◇事業内容：

現地時間 11 月 3 日午後、ネパールの首都カトマンズから約 300 キロ離れたジャージョルコート郡のラミダダを震源地とする地震が発生。死者数は 157 人、多くの建物が破壊され、頻りに余震も起きていたため、被災者は近くの広場での生活を余儀なくされていた。

地震発生後、AMDA 本部の職員も含めて AMDA ネパール支部での被災者支援のミーティングを実施し、今後寒い日々が続くことを念頭に現地協力団体とニーズアセスメントを行った結果、被災者にブランケットやブルーシートなどの物資を支援することを決定した。9 日に、AMDA ネパール支部から調整員 1 人ウメス・プロサド・アチャルヤ氏が被災地域に向けて出発した。

支援物資の配布は、ジャージョルコート郡とルクム郡の 2 つの地域で行った。ジャージョルコート郡では、ナルガド市 11 地区の地区長のルール・バハドゥール・バニヤン氏にお会いして、地区の被災者用にブルーシート 50 枚、ブランケット 50 枚、マット 50 枚を手渡した。ルクム郡では、アトビスコト市の被災者 50 世帯へ、11 地区の地区長と共に、ブルーシート、ブランケット、マットを配布した。

被災地にある古家はほとんど壊れていて、住める状態ではなく、寒い日が続く状態であったが、少しずつではあるが、他のところにも支援物資が届いていっている様子であり、何か支援が必要な場合は AMDA ネパール支部に連絡をいただければすぐに対応すると伝えて、調整員はカトマンズへ戻った。



■令和 6 年能登半島地震被災者緊急支援活動

◇実施場所： 市立輪島病院、輪島市立輪島中学校

◇実施期間： 2024 年 1 月 2 日～

◇派遣者（派遣順）：

* AMDA 職員

大西彰 / 調整員 / AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム合同対策本部長、佐藤拓史 / 医師 / AMDA 理事長、難波妙 / 調整員 / AMDA 副理事長、金高摩耶 / 調整員 / AMDA プロジェクトオフィサー

* AMDA 災害鍼灸支援メンバー

林篤志 / 鍼灸師・調整員



＊ AMDA 緊急救援ネットワーク登録メンバー

頼藤貴志 / 医師、山村容加 / 看護師、横谷勇紀 / 看護師、谷口あゆみ / 薬剤師、鈴記好博 / 医師、西村輝 / 調整員、酒井太郎 / 医師、岡野亜香 / 看護師、西村亜希子 / 薬剤師、堀内美由紀 / 看護師、安森泰諳 / 調整員、長谷川太郎 / 医師、堀田和子 / 医師、萩谷英大 / 医師、三宅孝士 / 調整員、菅原久美子 / 看護師、安西兼丈 / 医師、東千織 / 看護師兼調整員、藤本智子 / 看護師、竹原旺佑 / 調整員、長谷川舞 / 看護師、神徳備子 / 看護師、平野晃 / 調整員

＊ 諏訪中央病院（AMDA と大規模災害時の連携協力協定を締結）（長野県茅野市）

齋藤穰 / 医師、宮澤英典 / 看護師、松尾昌 / 調整員 / 臨床工学技士、玉井道裕 / 医師、池田大岳 / 医師、江森敦子 / 看護師、渡辺慶介 / 医師、植木一陽 / 医師、伊藤さち子 / 看護師、星野諒 / 医師、中山秀明 / 看護師、林耕平 / 理学療法士、永田豊 / 医師、胡田健一郎 / 医師、杉田勇 / 理学療法士、貝塚真知子 / 医師

＊ 依田窪病院（長野県小県郡）

中村孝志 / 医師

◇ 受益者数：

2月3日までの診察対応数 792 件（胃腸炎、コロナ、インフルエンザを含む）

◇ 受益者の声：

「AMDA は輪島の人たちを救ってくれました。」

「南海トラフが発生したら個人的にでも応援に行きます。」

◇ 事業内容：

2024 年 1 月 1 日午後 4 時 10 分頃、石川県能登半島を震源とする最大震度 7 の地震が発生。AMDA では地震発生直後から情報収集を開始した。

1 月 2 日正午過ぎ、AMDA は、調整員 2 名を岡山から派遣、3 日には輪島市立病院を活動拠点とする災害対策本部に到着し、4 日には長野県諏訪中央病院と AMDA から派遣された医療チームと合流。避難者の状況、医療ニーズの調査を DMAT、日赤と協力して行い、7 日に輪島市立輪島中学校の避難所保健室で医療救護所を担当する事が決定した。最大避難者数が、発災直後 800 名近くになった同中学校避難所。1 月 8 日の避難者数は 406 名まで減少していたが 9 日には、542 名に膨れ上がり、依然として多くの避難者の方々が、不安定で過酷な避難生活を強いられていた。そのような中、感染性胃腸炎や新型コロナウイルス、インフルエンザなどの感染症が多発。8 日の受診者 62 名のうち、32 名が感染症、そのうち 20 名が感染性胃腸炎だった。AMDA は、岡山市民病院、日本青年会議所医療部会などから点滴や処方薬の支援協力を受け、治療にあたった。同時に、避難所内での感染拡大を抑えるための対策が最優先事項となった。感染症別に隔離するための教室の確保、感染エリアの明確化、室内の土足厳禁を実施。給水車での水の確保は出来ても、上下水道に大きな被害を受けていたため、下水を流す事が出来ず、断水は続き、館内トイレではビニール袋の中に凝固剤を入れてトイレを使用していた。そのような状況下でありながら、トイレ掃除と手指消毒など、避難所運営にあたる多くの関係者ならびに避難者とともに、徹底的な衛生環境整備に取り組んだ。これにより、感染症のリスクは大幅に軽減することができ、1 月 14 日以降のすべての感染者数を 1 桁前半まで抑えることができた。

また、避難所生活における健康管理にも配慮し、災害高血圧やエコノミークラス症候群などについての情報を幅広く共有することに努め、血圧の自己管理、血栓予防の体操の必要性を啓発。避難者に呼び掛けて、理学療法士による AMDA 体操（ストレッチ）への参加を促した。あわせて、多くの避難者が、いつでもストレッチできるように、その方法を明記したチラシを配布し、運動の必要性を強く訴えた。睡眠の改善、良質の食事などの予防策を周知して被災された方々の健康を支えた。

地元医療を一本化するという輪島、医療・福祉調整本部の決定に従い、AMDA は、2 月 3 日をもって輪島中学校医療救護所での医療支援活動を完了する事になり、以降は医療以外の支援活動に移行することになった。



2 復興支援活動

■東日本大震災復興支援活動

① AMDA 東日本復興支援「第 17 回復興グルメ F-1 大会 in 南三陸」

◇大会開催場所： 宮城県南三陸町 志津川仮設魚市場

◇大会開催日： 2023 年 11 月 19 日

◇ボランティアバス運行日程： 2023 年 11 月 17 日～ 20 日

◇派遣者： ボランティア 21 人、山河 城春／看護師／AMDA 緊急救援ネットワーク、難波 比加理／AMDA 職員、太田 浩子／AMDA 職員

◇現地協力団体：

第 17 回復興グルメ F-1 大会実行委員会、南三陸町、一般社団法人南三陸町観光協会マルシェ部会、南三陸商工会

◇参加者数： 1,312 人（内ボランティアバス参加者 21 人）

◇受益者の声：

「並んだ甲斐があったと感じられるほど美味しかったです。だしが染みっていて美味しかった。心が温まる一杯でした。次回も楽しみにしています。」

◇ボランティアバス参加者の声：

「テレビでしか知らなかった東日本大震災を実際に東北に来たからこそ知る事が出来た。復興の形も場所により違っていた。人との出会いが自分の将来を考えるいい機会になった。」

◇事業内容：

東日本大震災被災地の商店街を中心とした被災地間を結ぶ事業として、「復興グルメ F-1 大会」を 2013 年 1 月から行っている。本年度は、11 月 19 日、第 17 回となる「復興グルメ F-1 大会」を 4 年ぶりに宮城県南三陸町にて開催した。大会当日は、岩手県陸前高田市、宮城県気仙沼市、宮城県南三陸町、宮城県石巻市、福島県相馬市、栃木県市貝町の 6 つの地域より 15 のグルメを販売するブースが並び、1,300 人をを超える多くの来場者で賑わった。また AMDA は本大会の開催に伴って、11 月 17 日から 4 日間、岡山発着のボランティアバスを運行し、AMDA 中学高校生会メンバーを含む学生・一般ボランティア 21 人が参加。大会前日は「東日本大震災津波伝承館いわて TSUNAMI」、「メモリアル 3.11 仮設住宅体験館」を視察したり、岩手県陸前高田市のたまご村で店を運営している復興グルメ F-1 大会運営事務局の太田明成さんより、震災当時から現在の様子のお話を伺った。また大会当日、参加したボランティアさんは会場の設営準備や各販売ブースの手伝いをした。



② 仙台市震災ホームレス支援

◇実施場所： 宮城県仙台市

◇実施時期： 2013 年～継続中

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

NPO 法人仙台夜まわりグループ

◇受益者数： 延べ 1,200 人

◇事業内容：

仙台市内で窮状を訴える路上生活者、生活困窮者に定期的な支援を継続している。AMDA から物資支援した岡山県産のお米は、炊き出しのお弁当やお代わり自由のカレーライスとして提供。独居高齢男性も多いが、コロナ禍以降若者たちの参加も目立っている。JR 仙台駅周辺の夜まわりでは、おにぎりを他の食糧やカイロとともに手渡しした。また、コロナ禍で解雇された人たち、アルコールやギャンブル依存症で苦しむ人、多重債務で生活破綻にある人たちへの相



談支援と健康相談会も行った。AMDA 寄贈のグンゼの肌着は昨年に続き今年も好評で喜ばれた。

③ AMDA 大槌健康サポートセンター事業

◇実施場所： 岩手県上閉伊郡大槌町

◇実施期間： 2011年3月12日～継続中

◇従事者： 佐々木賀奈子 /AMDA 大槌健康サポートセンター長、教室事業講師2人

◇受益者数（2023年度）： 延べ人数教室事業447人、鍼灸570人

◇受益者の声：

「ZOOMの健康増進セミナーでストレッチをするようになって慢性的な肩こり、腰痛がなくなったと喜んでます。セミナーを受講して食事で免疫力の高い食品をとることを心がけている。」

「さをり織りは、糸の種類、色合わせは奥深く同じものを作るのは大変。木工教室は、使用する道具も増え技術がすすむにつれて、より多くの人に見てもらえるよう展示会に出展しました。」

◇事業内容：

AMDA 大槌健康サポートセンターは、2022年12月にリニューアルし、2024年で2年目となった現在、木工、さをり織り、郷土料理教室事業を定期的で開催しており、地域の人たちが気軽に集まるスペースとなっている。オンラインで、健康増進セミナーを開催し幅広い世代の方が参加しており、災害時には、避難スペースとして活用できるようにしている。また、おかやまコープとのオンライン交流事業では、大槌町のひょうたんを使った貝細工作りをおかやまコープの組合員の方と一緒に作成。現在の大槌町内の復興住宅と人口減少など様々な変化の様子を佐々木賀奈子センター長が話した。

④ 気仙沼・食料支援事業

◇実施場所： 宮城県気仙沼市 南町紫神社前商店街中央広場

◇実施時期： 通年（毎月1回）

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

坂本正人／復興グルメF-1大会運営事務局代表／AMDA 参与、菅原尚美／復興グルメF-1大会運営事務局

◇受益者数： 1,200人

◇受益者の声：

「何もかも値段が高騰して大変です。本当に助かります。」

「いつも助かります。ありがとうございます。」

◇事業内容：

前年度より引き続き『長引くコロナと物価高騰による食料品配布』支援として、様々なイベントに合わせて、お米やフリーズドライのお味噌汁、カップヌードル、レトルトカレーなど、毎月100人分を準備し、参加した子ども連れの家族や年金暮らしの人など

多くの方に配布した。5月に開催したGWイベントでは、子どもビンゴ大会、子ども縁日、また音楽イベントなどで多くの方が参加し、コロナ対策を十分にしつつ、素敵な音楽と共に賑わった。

イベントとしては、7月は『気仙沼バル2023 南町紫神社前商店街紫ミュージックライブ』、8月は『みなとまつりイベント』『命を学ぶプロジェクト 安城学園高等学校弦楽部 東日本と愛知をつなぐ弦楽コンサート』、9月『気仙沼ストリートライブフェスティバル』、11月『6周年記念祭』、そして1月に行った『ガラガラ抽選会及びもちまきイベント』では、イベントに合わせて『令和6年能登半島地震募金』も行った。

また、事務局代表の坂本正人さんが、南町紫神社前商店街を訪問した『筑波大附属駒場中学3年生』の皆さんと『茨城キリスト教大学経済学部 古井ゼミ』の皆さんへ、『地域活性化の取り組み』についてお話をし若い世代に伝えた。



■トルコ地震被災者復興支援活動

- ◇実施場所： トルコ・アドゥヤマン県
- ◇実施時期： 2023年2月10日～継続中
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム構成： AMDA 本部、アドゥヤマン医師会
- ◇受益数数： 約165世帯
- ◇事業内容：

現地時間2023年2月6日未明に、トルコ南部を震源とするマグニチュード7.8の地震が発生した。地震による深刻な被害状況を受け、AMDAはトルコ南部での緊急支援活動を開始し、2月11日から3月4日まで、合計5名を派遣し、トルコ及び地元医師会と協力し、トルコ・アドゥヤマン県を中心に健康相談や物資支援などの支援を行った。

2023年4月以降も、アドゥヤマン医師会主導で中長期的支援を継続している。同医師会は、発生直後よりイスタンブール医師会や現地のボランティア医師、精神科医師たちとともに診療を行ってきた。

2023年8月には、仮設キャンプが解体され、人々はトルコ政府が提供したコンテナに移っていったが、家を離れられない人は依然としてテントで滞在していた。また、被害の大きい建物の解体作業により、市内全体にほこりが舞い上がり、呼吸器感染症や咳、結膜炎が大幅に増加していた。

アドゥヤマン医師会は、トルコ政府が仮設宿泊所として避難者に提供した、最大165世帯が暮らせるコンテナの一角を、臨時クリニックとして運営している。このクリニックは、無料の歯科検診と妊婦の出産前ケアを提供している。地震発生直後、被災者の心理的サポートをするため、精神科医が招集された。その後、周辺には総合病院が開院し、特に未成年者の心理的サポートに力を入れた子どものデイケア施設も併設されている。



■インド・ブッダガヤ市場火災被災者支援事業

- ◇実施場所： ブッダガヤ
- ◇実施日： 2023年4月11日～5月15日
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：
インド・ブッダガヤ現地協力団体
- ◇受益者数： 10店舗
- ◇受益者の声：

「突然の火事により、一瞬ですべてを失いました。商売をして家族を養っていたので、どうすればよいのかわからなくなり、乞食になるのではないかと心配で夜も眠れませんでした。すぐに、ビクラムさんたちが現場に来て、現状をAMDAに報告してくれました。AMDAの支援で仮設店舗を建てていただき、普段通り、野菜、果物、花などを売って、定期収入もあり、経済的に困ることがなくなりました。今回、私たちを支えてくださったAMDAの寄付者の方々に心より感謝申し上げます。」

「火事の時に店のガスボンベが爆発し、屋台全体が使えなくなりました。新しい屋台をいただき、以前と同じようにインドのファストフードを売ることができて本当によかったです。支援者の皆さん、そして支援者とつながってくださったビクラムさんにも感謝をしたいと思います。」

- ◇事業内容：

現地時間2023年4月11日にインド、ブッダガヤ現地協力団体ビクラム氏より、世界遺産であるマハボーディ寺近くの市場で火災が発生し、100以上の店舗が全焼したと連絡があった。AMDA本部はすぐに被災者への支援を決定し、現地協力団体のメンバーが被災現場を訪問し、現地のニーズ調査を行った。その結果、被災者にとっては、自らの生活を支えている店舗を一日も早く再開することが願いであったため、AMDAは、野菜、果物、花などを売るための、竹や



トタン板で建築された仮設店の設備費用を支援した。その他にも、ファストフードの経営者に屋台を提供したり、飲料水を引き上げるハンドポンプの設置なども行った。

11月26日には、菅波茂理事長とAMDAスタッフ2人が火災現場を訪問し、AMDAの支援により建てられた仮設店舗で野菜、果物、花、ファストフードなどが売られている様子を視察した。その際、被災者の方々と話し、被災者の方々と一緒に市場の再開を喜んだ。

■パキスタン洪水被災者復興支援活動

◇実施場所： シガール溪谷(カイバル・パクトウンクワ州スカルドウ)

◇実施日： 2023年6月19日～25日

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

AMDAパキスタン支部、バカイ医科大学の医療チーム

◇受益数数： 約250人

◇事業内容：

2022年後半にパキスタンで発生した大規模な洪水被害の被災者を継続して支援するため、AMDAパキスタン支部及び関係の深いバカイ医科大学の医療チームが、1週間におよび、医療・歯科キャンプを実施した。

洪水発生当初より、AMDAは、AMDAパキスタン支部及びバカイ財団と協力して、甚大な被害を被ったシンド州モロ、タッタ、カロの3か所で緊急支援活動を実施しており、2022年10月から12月にかけては、巡回診療と物資支援を行っている。今回はフォローアップ支援として、「無料歯科キャンプ」と題し、シガール溪谷の被災者に対して、医療・歯科サービスを無料で提供した。患者の希望に応じて医薬品の無料配布も行った。



■ハイチ・国内避難民キャンプ医療支援活動

◇実施場所： ポルトープランス市・デルマ地区

◇実施日： 2023年9月7日～9月10日、10月19日～10月22日、2024年3月10日～3月12日

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

AMDAハイチ支部：12人、避難民キャンプ運営者：30人、ハイチ内務省：27人、ハイチ保健省：22人

◇受益者数： 合計1,671人

◇受益者の声：

「より長く避難民キャンプに滞在し、活動を継続してほしい。」

「他の避難民キャンプにも来てほしい。」

◇事業内容：

ハイチでは、武力集団による殺害や放火の激化によって、多くの人々が居住地を追われキャンプに避難している。2024年2月時点では、首都ポルトープランス市内には、600人から3,000人規模の避難民キャンプが38も存在していた。避難民キャンプでは、食べ物や飲み水などが不足しており、さらに病気が蔓延している。

こうした状況の中、AMDAハイチ支部は、2023年9月から3月にかけて、首都ポルトープランス市、及びデルマ市にある避難民キャンプで医療支援活動を実施し、合計1,671人への健康診断と歯科治療、医薬品および飲料水の提供を行った。様々な種類の病気が診断される中で、特に熱や下痢、風邪、喘息、頭痛、高血圧などの症状が多く見られた。現地のスタッフからは、「それらの避難民キャンプに薬を提供したNGOは今まで他になく、本活動はそのような国内避難民にとって大変効果的であった」との声が上がった。



3 災害対応プラットフォーム

■ AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム

◇実施場所： 岡山県、徳島県、高知県

◇実施時期： 通年実施

◇事業内容：

AMDA では、発生すれば死者 30 万人、300 万人が被災するとも言われる南海トラフ巨大地震への取り組みとして、「AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム」を 2015 年に設立。巨大地震が発生した場合に、孤立しやすい四国の徳島県・高知県に 10 チームが迅速に支援活動を行えるよう、自治体、医療機関、企業などが一体となり準備を進めている。連携協定を結ぶ自治体や医療機関、経済団体と緊密に連携し、四国での訓練を通じて交流を広げている。

①食糧などの事前備蓄 当初の備蓄品のローテーションと合わせて備蓄品の見直し

②支援に駆けつける医療機関と支援に入る徳島県・高知県の自治体との事前マッチング、事前交流、訓練を通じての交流などを実施。

【訪問先】

日程	訪問先 * 敬称略
7/12	阿南市長－美波町長－牟岐町長－海陽町長 への菅波茂理事長訪問
7/13	阿波市長－美馬市長－徳島県知事－徳島県医師会会長 への菅波茂理事長訪問



【訓練】

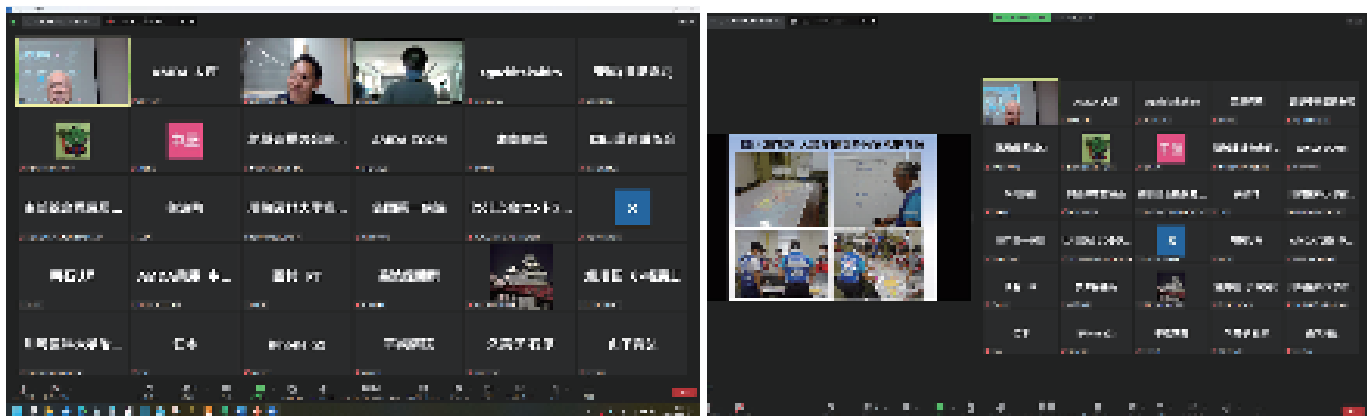
日程	訓練名	活動内容
9/3	高知県黒潮町主催 「黒潮町総合防災訓練」	前日に黒潮町の学生との交流で来ていた AMDA 中学高校生会のメンバーは防災訓練に観光中に被害を受けた患者役として、避難所訓練に参加。 【参加者】 AMDA 本部 (3 人) + 中学高校生会 (10 人)
9/30	徳島県主催 「大規模地震時医療活動訓練 (美馬市担当)」	徳島県庁で DMAT の大規模訓練が行われた。美馬市役所では対策本部を立上げた。AMDA 調整員 1 人がリエゾンとして残り、AMDA 医療チームが市内の施設を 2 カ所巡回。 【参加者】 AMDA 本部 (1 人) + 倉敷平成病院 (1 人) + ホウエツ病院と徳島の看護師 (1 人)
2/18	徳島県阿南市主催 「令和 5 年度四国の右下 防災週間関連事業 (阿南市参加課目)」	訓練前日に諏訪中央病院が長野県から瀬戸大橋を通るルートで徳島県まで移動。美馬市から山側のルートで阿南市まで移動、ホウエツ病院のチームが先導した。今回の訓練では、AMDA 本部からのスタッフは参加なし。これまでと違うルートで現地に向かう。 【訓練参加者】 AMDA 兵庫 (8 人)、ホウエツ病院 (3 人)、諏訪中央病院 (4 人)

3/9	社会福祉法人総社市社会福祉協議会主催	「AMDA 活動のパネル展示」で避難所や被災地域のパネルを展示。
-----	--------------------	----------------------------------

【勉強会など】

① 南海トラフプラットフォームの徳島勉強会

南海トラフ災害対応プラットフォームに参加されている倉敷中央病院内の勉強会に協賛をいただき、南海トラフ災害対応プラットフォームで徳島県内を担当する医療機関と各自治体、現地医療機関に声掛けを行った。南海トラフ地震が発生した際の、徳島県内での被災状況や医療体制について、ホウエツ病院の林秀樹理事長より講演いただいた。



日程	活動内容
11/6	<p>議題：「AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム、及び徳島県におけるホウエツ病院のご紹介」 AMDA 南海トラフ地震対応プラットフォーム運営委員会 委員長 林秀樹先生（医療法人芳越会 理事長） Zoom でのオンライン開催。 【参加者】30人</p>

② その他

日程	名称	活動内容
8/2	高知県主催 「南海トラフ地震防災対策について、高知県、高知市、須崎市、黒潮町との協定書に基づき南海トラフ地震防災対策協議会」参加	<p>高知県庁本庁 3階 防災作戦室にて協議会が開催。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.AMDA からの報告 2. 高知県からの報告 3. 各市町からの報告 <p>協議会の後、高知市内の津波タワーの視察。</p>

平和構築

健康増進

教育支援

生活支援

4 その他

日程	プロジェクト (2023年度)	受益者数	活動内容
2023年6月	出版 「30 years of AMDA Nepal 1991 to 2021」 	発行部数 1,000冊	【活動内容】 AMDA ネパール支部は1989年に設立され、1990年にネパール政府の非営利活動法人AMDA ネパールとして認可された。以来、ネパールの地域住民への保健医療サービスを提供している。AMDA ネパール支部はダマック市、メチナガル市とプトワル市に病院を、ゴカルネソル市では歯科クリニックをそれぞれの自治体と商工会議所と協力しながら病院運営をしている。AMDA が主催する緊急支援活動に参加したメンバーやスタッフも多く、この度「AMDA ネパール支部30周年記念誌集」を出版し、AMDA ネパール事業の協力者からのメッセージに加えて、メンバー、スタッフからの経験談も収録した。また、ネパール支部の歴史を語る多くの写真も記載されている。AMDA ネパール事業関係者に寄贈した。
2023年12月 ～2024年3月	大使館訪問	駐日外国 公館など 12公館 4関係機関 2関係者	【活動内容】 AMDA は、2012年より毎年、AMDAの活動地域である国と地域の公館および関係機関、関係者を表敬訪問し、1年間の活動報告とともに、感謝の意として岡山県新庄村の有機米を贈呈。2023年度はフィリピン総領事館を表敬訪問し、新庄村の有機米を贈った。 

平和構築

健康増進

教育支援

生活支援

健康増進

プライマリーヘルスケア事業

インド AMDA ピースクリニック



栄養指導



妊婦健診

カンボジア・リプロダクティブ ヘルスに関する青少年フォーラム他



ワークショップ

フィリピン地元住民 健康支援事業



診察の様子

平和構築

健康増進

教育支援

生活支援

医療技術移転事業

モンゴル内視鏡技術研修



モンゴル救急救命研修



友好病院事業

ネパール・プトワール市長及び AMDA 現地関係者来日



AMDA ネパール子ども病院 25周年式典及び プラシッダ プラワル ジャナセ ワシュリー勲章の伝達式



1 プライマリーヘルスケア事業

■インド・ブッダガヤ AMDA ピースクリニック母子保健事業

◇実施場所： ビハール州ブッダガヤ

◇実施時期： 2009年11月～現在

◇派遣者（2023年度）： 菅波 茂 / 医師 / 理事長、あるちやな・ジョシ / 調整員 / AMDA 職員、常原 拓真 / AMDA 中学高校生会チーフコーディネータ

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成： AMDA 本部、AMDA ピースクリニック（以下 APC）

◇受益者数（2023年度）： 延べ 1,642 人（妊婦健診 638 人、栄養指導 1,004 人）

◇受益者の声

「定期的に検診をしてもらえることで日頃から赤ちゃんや自分の体の健康に気を配ることができます。」

「姉が以前検診に参加しており、話を聞いて興味を持ちました。今後は、クリニックに来て体に異常がないか定期的に診てもらおうと思います。」

「何を食べて、どのように過ごせば健康に気をつけることができるのかを学びました。」

「毎月検診に来る意味を理解することができました。」

◇事業内容：

インド・ブッダガヤにて、母子保健事業を対象に活動を行っている AMDA ピースクリニック (APC) は、2023 年 11 月 25 日に創立 15 周年を迎えた。

2014 年から月 2 回定期妊婦健診を行っており、毎回 30 人前後が参加。APC のスタッフによる体重測定と患者さんの聞き取りを行ったあとに、現地の産婦人科医により診察を受ける。必要に応じて薬やサプリメントを提供。また、週に 1 回、同地域に住む妊婦や母親を対象に、栄養指導や健康教育のプログラムも行っており、各回平均して 20 人が参加している。その時々にあった健康に関する話題について APC のスタッフから説明し、その後、参加者に食事（野菜スープ、くだもの、にんじんプリン、野菜天ぷらなど週によって変動）を提供している。

2023 年 1 月からは、現地協力団体の土地で収穫した小麦やダール豆や野菜を一部使用して、活動地域の周辺に住む貧しい人々を対象に食事支援も行っている。

■カンボジア・リプロダクティブヘルスに関する青少年フォーラムほか

◇開催場所： プノンペン市

◇開催日： 2023 年 8 月 22 日

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

AMDA カンボジア支部、チェンラ大学、株式会社山一観光、AMDA インターナショナル

◇参加者数： およそ 100 人

◇事業内容：

2023 年度、AMDA カンボジア支部は主に 2 つのプロジェクトを実施した。1 つはチェンラ大学との共催による『リプロダクティブヘルスに関する青少年フォーラム』、もう 1 つは学生を中心としたスポーツアクティビティー



へのサポートである。

今回で5回目の開催を迎えた青少年フォーラムでは、これまでHIV・エイズや性感染症予防について知識を深め、また地方における女性のリプロダクティブヘルス・ライツや子宮頸がん予防に関する啓発活動を行ってきた。今年度は、特に梅毒等、最近妊婦の間で増加傾向にある性感染症を取り上げた。国の機関や大学から識者を招いて行われた今回のフォーラムには、およそ100人が参加。専門家による講義のほか、カンボジアの若者を取り巻く性行動の現状と課題を踏まえて、セルフキットを用いたHIV検査の手順等を紹介。質疑応答を交えたセッションが行われた。

2つ目のスポーツアクティビティーへのサポートは、近年カンボジア支部が続けてきた活動の1つで、主にチェンラ大学と共同で学生サッカーを支援している。今年度は近隣の大学のチームを交えて、『チェンラ大学サッカー杯』を開催。総勢10チームが参加した。『AMDAカンボジア・サッカークラブ』として始まったこの活動は、若者が違法薬物使用等の軽犯罪に巻き込まれるのを阻止し、サッカーを通じて青少年の健全な育成を図ることを目的としている。

いずれの活動も、(株)山一観光様による長年のご支援の下で継続されている。

■フィリピン地元住民健康支援事業

◇開催場所： パラニャーケ市、サン・フアン市

◇開催日： 2023年9月9日、16日

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

AMDA フィリピン支部、AMDA 本部、ロータリークラブ・オブ・マニラ 101、フィリピン赤十字、他現地協力団体

◇参加者数： 延べ854人(2日間合計)

◇受益者の声：

AMDA フィリピン支部長 エルレイ・ナバロ医師からのメッセージ
「パンデミック以前から現在に至るまで、AMDA 本部とスポンサーの皆様は、特に災害の際、私たちのすべての努力を支援してくださいました。心の底から、多くのフィリピン人一同より、寛大なご寄付に感謝いたします。皆さんのような支援者がいれば、私たちは必ず目標を達成できると信じています。皆様のご寄付は、私たちが支援する人々の生活に大きな変化をもたらしています。皆さん、本当にありがとうございます！」

◇事業内容：

2023年9月9日および16日、AMDA フィリピン支部はパラニャーケで地元住民に対する健康支援事業を行った。9月9日には、300人への診療活動、100人への無料眼鏡の提供、450人への無料の食糧配布、車いすの配布などを行った。本支援事業実施には地元団体の協力があつた。

さらに、同月16日には、「内科的、外科的および心理的健康事業」(Medical, Surgical and Mental Health Mission)と題し、サン・フアン市の地元住民の方々に無料の健康診断、薬や食糧の配布、散髪、子ども達を対象とした読み聞かせや塗り絵、ズンバ、車いすの配布などを行った。医療・心理的な支援から日々健康維持のための支援に至るまで、健康に関する幅広い活動を行った。同日の活動も、地元団体の協力を受け実施し、現地の多くの方々の笑顔を見ることができたとの報告があつた。



2 医療技術移転事業

■モンゴル内視鏡技術研修

◇実施場所： モンゴル国立中央鉄道病院、日本モンゴル教育病院

◇実施時期： 2023年6月28日～7月7日、11月7日～8日

◇派遣者： 佐藤 拓史 / 医師 / AMDA 理事、白井 保之 / 医師 / 小倉記念病院消化器内科主任部長、難波 妙 / 調整員 / AMDA 理事

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

日本モンゴル教育病院消化器内科内視鏡室、モンゴル国立中央鉄道病院

◇受益数数： 29 人

◇受益者の声：

「MDDW でのゲストスピーカーとしての参加は、モンゴルの医学会を大いに豊かにしてくれました。」

「皆様の総合的な尽力は、モンゴルの消化器および肝臓疾患の診断と治療能力を高める上で極めて重要であります。」

「理論に基づいた臨床実習、シミュレーターを使った実習、外科・病理部門との合同カンファレンス、救命救急医へのセミナーと実習は非常に効果的でした。」

◇事業内容：

AMDA は、2010 年に締結したモンゴル国立医科大学との協力協定に基づき、2017 年から 2019 年まで、毎年、佐藤拓史医師（AMDA 理事）が同大病院で内視鏡技術研修を行ってきた。また、この間には、岡山県国際貢献「ローカル・トゥ・ローカル」技術移転事業の海外技術研修員として、同病院から 2 人の内視鏡医が岡山済生会総合病院で医療研修を受けている。



今回で 5 回目となる内視鏡技術移転事業は、本年度も小倉記念病院消化器内科主任部長、白井保之医師、佐藤医師により、モンゴルの医師免許の下実施された。今回モンゴル側から最も期待された治療は、モンゴル初の内視鏡的硬化療法結紮術併用療法（EISL）であり、日本から必要な器具・薬剤を持ち込み、モンゴルの内視鏡医とともに、ノウハウ（検査に必要な物品、準備の手順、手技のイロハ）を伝えながら無事に治療を終えた。術者だけでなく介助も技術と経験が必要であり、多くの医師が新しい治療に興味津々であった。モンゴルの医師の内視鏡技術は急速に成長しており、この内視鏡治療がモンゴルにおいても普及する手応えを感じた。

今回行った内視鏡治療は、以下の通り。

- ・内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）5 例
- ・食道静脈瘤に対する内視鏡的硬化療法結紮術併用療法（EISL）9 例
- ・胃静脈瘤に対する内視鏡治療（ヒストアクリル）11 例
- ・内視鏡的静脈瘤結紮療法（EVL）3 例
- ・内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP）1 例

いずれも問題となるような合併症なく治療を終えた。

今回の研修の実績をもとに、日本モンゴル教育病院のアディルサイハン病院長と今後必要となる医薬品、デバイスの導入について、検討を行った。また、外科、病理とのカンファレンスでは白井医師より、点墨やマーキングの大切さを講演した。毎回、恒例となっている佐藤医師によるシミュレーターを用いた下部消化管内視鏡の挿入トレーニングには、実際の感覚を身に着けるために若手の医師たちが毎日、交互に何度も挑戦していた。夜遅くまで残って指導を受ける医師も多く、一人ひとりに対して、丁寧に指導を続けた。熟達度をお互いに共有し合う姿勢から技術の向上が期待できる研修だった。

さらに、今回は、MDDW（Mongolia Digestive Disease Week）へも参加した。白井医師は、食道静脈瘤や胃静脈瘤に対する内視鏡治療と早期食道癌や胃癌に対する治療（ESD）について、佐藤医師は消化管出血の合併症と新しい治療について講演した。この講演で発表した日本での治療法を今回のモンゴルでの治療でも実施し、引き続き、内視鏡治療に関しては、モンゴル側とオンラインのカンファレンスを行い、治療後の経過や追加治療の方針について話し合いを行っていく予定。

また、11 月にも移転事業を行い、計 30 人に上部消化管の内視鏡検査を行った。佐藤医師は、参加した医師達に

対して検査画像を基に診断方法についてそれぞれの判断を聞きながら研修を進め、患者さんには検査結果を丁寧に説明した。また、同時に日本から持参した大腸カメラのシミュレーターを使った研修も実施した。

■モンゴル救命救急研修

- ◇実施場所： モンゴル国立中央鉄道病院、日本モンゴル教育病院
- ◇実施時期： 2023年7月3日、5日、11月9日
- ◇派遣者： 佐藤拓史 / 医師 / AMDA 理事、難波妙 / 調整員 / AMDA 理事
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム構成： 日本モンゴル教育病院、モンゴル国立中央鉄道病院
- ◇受益数数： 延べ75人
- ◇受益者の声：
「次回は是非、佐藤医師に実際に診療列車に同乗して研修を行ってほしい。」
- ◇事業内容：

2023年は、7月3日にモンゴル国立中央鉄道病院で、7月5日に日本モンゴル教育病院で、実際に救急の現場で活動する医師を対象に救命救急研修を行った。

モンゴル国立中央鉄道病院は、モンゴル国内の鉄道の駅近くに27か所の支部の病院があり、診療対象となる職員とその家族の全体人数は約16,000人を超える。健康保険制度の見直しに伴い一般の人も受診するようになった。ウランバートルにある本部の病院の病床数は300床。9月から新病院の建設が始まる。病院列車もあり、モンゴルの21ある県のうち8県を巡回している。今回、同病院において、22人の現場医師の参加の下、FAST（外傷の初期診療における迅速簡易超音波検査法）と骨髄髄液のセミナーが実施された。7月5日に行われた日本モンゴル教育病院で行われた研修にも23人の医師が参加した。



また、11月9日には、国立中央鉄道病院の関係者ならびに関係機関の救急医らに救急セミナーを開催した。

外傷患者の治療は傷病部位によって、診断・治療手技が異なり様々な知識や医療技術が必要となる。救急医に必要な診断技術や治療法を講義しながら、実際の臨床に即した実践的な診療技術を伝える研修を実施した。

③ 友好病院事業

■ネパール・ブトワール市長及びAMDA現地関係者来日

- ◇訪問場所： 岡山市、総社市、倉敷市、神戸市
- ◇訪問期間： 2023年5月29日～6月4日
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム構成： AMDA ネパール支部、AMDA 兵庫支部
- ◇事業内容：

AMDA ネパール支部は1989年に設立、翌年にネパール政府より「AMDA ネパール」として認可された。以来、地域住民に保健医療サービスを提供してきた。更に同支部はダマック市、メチナガル市、ブトワール市に病院を、ゴカルネスオル市では歯科クリニックを、それぞれの自治体と商工会議所と協力しながら運営している。

2023年5月29日、ネパールよりブトワール市の市長をはじめとする6人が来日し、AMDA本部のある岡山を中心に、行政機関、商工会、大学、医療機関等を訪問、見学した。

【ネパール・ブトワール市長並びに同市関係者、総社市長表敬訪問】

5月30日、一行は岡山県総社市の片岡聡一市長を表敬訪問し、歓迎式典に出席した。総社市が力を入れている障がい者雇用政策の話聞き、その後、障がい者が働いている施設を見学し、両市の紹介と、今後の取り組みなどについて協議を行った。一行は総社市のごみ焼却施設も見学し、関係者から設立の費用、仕組みや住民に納得してもらうための方法などについて話を聞いた。ブトワール市はネパールで課題となっているゴミ処理のために、ごみ焼却施設の建設についてとても有意義な情報を得たと、帰国後ブトワール市でもごみ焼却施設の建設に向けて検討したいと話をされた。

**【ネパール・ブトワール市長並びに同市関係者、岡山県立大学を訪問】**

5月31日、AMDAと連携協力協定を締結している岡山県立大学を訪問した。沖陽子学長を表敬訪問、現在年間3,500の分娩を行う「シッダールタ母と子の病院」などについて説明した。県立大学の看護師や保健師を目指す学生達が、最新の技術が備わっていないネパールで、妊婦との交流や研修を行うことで、日本ではできない学びを行えるのではないかと、ネパール研修内容にまで話が広がり、実現の可能性を感じた。

その後、シッダールタ母と子の病院ラジェンドラ プロサド バシャール院長を中心に、県立大学の学生8人に講義を行った。学生からも、ネパールの災害対応や支援など、積極的に質問があった。

【ネパール・ブトワール市長、シッダールタ母と子の病院長並びに同市関係者、岡山県内の病院を訪問】

6月1日、岡山市立市民病院と倉敷中央病院を訪問し、シッダールタ母と子の病院の拡充を検討するにあたり、両病院の外来、産婦人科病棟、小児科病棟、手術室などを見学した。また、日本の優れた医療技術の移転や医療従事者との交流の可能性についても話し合った。

【ネパール・ブトワール市長・商工会議所会長並びに同市関係者、岡山市長及び岡山県商工会議所連合会会長を表敬訪問】

6月2日、大森雅夫岡山市長を表敬訪問し、両市の紹介を行った。同日、岡山県商工会議所連合会 松田久会長も表敬訪問し、今後の取り組みについて協議した。

また、同日AMDA本部も訪問。ブトワール市内にある「シッダールタ母と子の病院」の発展について、今後も引き続き、ブトワール市、ブトワール商工会議所、AMDAネパール支部、そしてAMDA本部が協力していくことに合意した。

【ネパール・ブトワール市長並びに同市関係者、兵庫県神戸市へ】

6月3日、シッダールタ母と子の病院（AMDAネパール子ども病院）に長年支援するAMDA兵庫メンバーを訪問、毎日新聞神戸支局の会議室にて、同病院の歴史と現状について講演会を行い、AMDA兵庫の方々に、同病院設立から現在までの多くのご支援に対して感謝の意を伝えた。

AMDA兵庫 江口貴博理事長は、引き続き同病院に支援していくと述べた。

翌日4日は、同病院の建物の設計者である安藤忠雄氏が設計された「こども本の森神戸」を見学し、関係者と面会し、今後も交流を深めていく意思を表明した。

その後、6人は全行程を終了し、ネパールに無事帰国した。

■ AMDA ネパール子ども病院 25 周年式典及びプラシッダ プラワル ジャナセワシュリー勲章の伝達式

◇実施場所： カトマンズ市、プトワール市

◇実施日： 2023 年 10 月 29 日～ 11 月 4 日

◇派遣者： 菅波 茂 / 医師 / AMDA 理事長、あるちやな・ジョシ / 調整員 / AMDA 職員

◇現地での参加者含めた事業チーム構成：

AMDA ネパール支部、ネパール子ども病院、プトワール市役所、プトワール商工会議所

◇参加者： 1,000 人

◇活動内容：

① プラシッダ プラワル ジャナセワシュリー勲章の伝達式

1998 年、ネパール ルンビニ州プトワール市に母子保健に特化した、「シッダールタ母と子の病院」が多くの日本人の支援によって設立された。

この度、ネパール連邦民主共和国ラム・チャンドラ・パウデル大統領より、プトワール市ならびにその周辺

地域の母子保健の向上に多大な貢献をしたとして、AMDA の菅波理事長に勲章が授与され、その伝達式が、2023 年 10 月 31 日にネパール内務省で行われた。この勲章は、“Prasidda Prawal Janasewashree”「プラシッダ プラワル ジャナセワシュリー勲章」と称され、同国が外国人に授与する最高位の勲章である。

菅波理事長は、「この活動は AMDA ネパール支部や病院のスタッフ、地域の方々、そして何より日本のご支援者の皆様のご協力がなければここまで続けることはできませんでした。この場を借りて皆様に心より感謝申し上げます。」と受勲の喜びを述べた。



② AMDA ネパール子ども病院 25 周年式典

2023 年 11 月 2 日、AMDA ネパール子ども病院は 25 周年を迎えた。ネパール連邦民主共和国の首相プロチャンドラ ダハル氏のご臨席の下、記念式典が同病院で行われ、地域住民 250 人とともに AMDA 本部から菅波理事長とネパール担当のあるちやなが参加した。シンガポール在住の AMDA 支援者 2 人も式典に同席した。

1998 年に阪神淡路大震災後に日本とネパールの多くの支援者の協力により設立されたネパール子ども病院、正式名称「シッダールタ母と子の病院」は、安藤忠雄建築事務所がボランティアで設計した。ブッダが生まれたルンビニ州プトワール市にあるこの病院は、ネパール首都のカトマンズ以外では初めての母子保健に特化した病院として専門家による治療を行っており、西ネパールの妊産婦や子供たちにとっての拠点病院となっている。現在は、1 日平均 8 人の赤ちゃんが誕生しており、2022 年は、外来と救急外来合わせて約 35,000 人の患者が受診した。プトワール市役所、プトワール商工会議所、AMDA ネパール支部が協力してこの病院を支えている。

プトワール市長は式典のあいさつで、「25 年前に建設されたこの病院は日本の皆さんからの支援で建てられた病院で、今後も日本国民の「愛の証」として大切に、地域の拠点病院となるよう、行政と地域住民が力を合わせて頑張っていきたい。」と述べた。これに対し、菅波理事長は、ここまで尽力されたネパール関係者への謝辞と共に、日本側も引き続き協力していくことを約束した。また、式典の中で、現在 100 床の病院を 300 床の最新の治療ができる病院を建てる計画と、来年度より医療専門学校として、看護、病理検査技師、ヘルスアシスタントの講座が開講することが発表された。

友好病院事業

日程	病院名	患者数 (2023年度)	活動内容
2011年～ 継続中	アフガニスタン・ 日本アフガニス タン友好病院	延べ 21,017人	【現地での参加者を含めた事業チーム構成】 AMDA アフガニスタン支部 【診療科】内科、産婦人科、小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科、歯科 【スタッフ数】17人（医師5人、歯科医1人、看護師2人、その他医療専門職など） 【これまで】 2011年、AMDA アフガニスタン支部長のラヒミ医師と6人の理事がカブールで開院。医師を日本に派遣して研修を受けさせるとともに、地域の貧困層を対象に良質な医療サービスを提供している。コロナ禍においては、医療費の支払いが困難な患者に無料で対応。マスクなどの感染予防用品、ならびにパンフレットを配布し、地域におけるコロナ感染予防を指導・推進した。尚、同支部は、これまで周辺地域で自然災害が発生した際に幾度となく医療チームを派遣している。
2008年～ 継続中	ネパール・ AMDA メチ病院	延べ 10,000人	【現地での参加者を含めた事業チーム構成】 AMDA ネパール支部 【診療科】内科 【スタッフ数】26人（医師4人、看護師4人） 【これまで】 2008年：在ネパール日本大使館、メチナガル市役所、商工会議所の支援によって設立 2015年：臨床検査技師のコースを開始 現在は、AMDA ネパール支部、市役所及び商工会議所の共同プロジェクトとして運営 メチナガル市民だけでなく周辺の村々に住む住民が怪我や一般的な疾患のためこの病院を受診、2022年度は一般外来及び救急外来などで医療サービスを提供した。
1992年～ 継続中	ネパール・ AMDA ダマック 病院	延べ 85,000人	【現地での参加者を含めた事業チーム構成】 AMDA ネパール支部 【診療科】内科、外科、産婦人科、婦人科、小児科、整形外科、耳鼻科、皮膚科、精神科、 歯科 【スタッフ数】265人（医師34人、看護師89人） 【これまで】 1992年 AMDA ネパール支部を実施主体として、メチ県ジャパ郡ダマック 市でプータン難民と地元双方の医療支援の対象として開設。 1996年 病院の付属施設として、AMDA 健康科学学院（AMDA Institute of Health Science）が設立。この学院では看護師コース、医療補助師コース、準助産師コース、地域 医療補助師コース、臨床検査技師コースを実施しており、毎年各コースに40人の学生が 入学し合計200人の学生が勉強している。 2005年 日本大使館からの支援で学院の建物を建設。 2016年 岡山済生会総合病院にて研修を受け、その後ダマック病院にて佐藤拓史医師（東 亜大学医療学部教授）による研修を受けた同病院内科医のディワス医師を中心に内視鏡検 査も実施、早期のがんを発見するなど、地元の方々の健康維持に貢献している。必要に応 じて近隣の村でモバイル医療支援を実施している。 2017年 在ネパール日本大使館の草の根・人間の安全保障無償資金協力により、ICUユニッ トの増設が完成、診療を開始。
1998年～ 継続中	ネパール・シッ ダールタ母と子 の病院 （通称：ネパー ル子ども病院）	延べ 72,000人	【現地での参加者を含めた事業チーム構成】 AMDA ネパール支部 【診療科】内科、産婦人科、婦人科、小児科、外科、整形外科、眼科、歯科 【スタッフ数】189人（医師26人、看護師65人） 【これまで】 1998年11月 阪神淡路大震災後の日本とネパールの多くの支援者の協力に より設立された、首都以外では唯一の母子専門病院。設計は安藤忠雄建築事務所がボラン ティアで協力。 2011年8月 新たな周産期病棟の建設を開始、翌年11月に完成。新病棟では陣痛室、分 娩室、産褥室、手術室、家族計画カウンセリング室、新生児集中治療室などを備え、妊娠・ 出産から新生児ケアを総合的に管理できるよう配慮している。 2023年11月2日に創立25周年を迎えた。
1999年～ 継続中	ネパール・ シマズ歯科医院	延べ 2,500人	【現地での参加者を含めた事業チーム構成】 AMDA ネパール支部 【診療科】 歯科 【スタッフ数】2人（うち医師1人）
1994年～ 継続中	バングラデシュ・ 日本バングラデ シュ友好病院	延べ 20,000人	【現地での参加者を含めた事業チーム構成】 AMDA バングラデシュ支部 【診療科】30以上の専門部門を有する大規模総合病院 【スタッフ数】270人（医師、医療技術者、その他含む） 【これまで】 日本に留学していた現・支部長のナイーム医師が同じく日本に留学していた 医師3人とともに設立。病院名である「日本バングラデシュ友好病院」の名付け親は、病 院開設を勧めた菅波茂AMDA グループ代表。開業当初は30床の病院だったものの、その後、 100床の総合病院にまで発展。内視鏡・腹腔鏡手術から透析、リウマチセンター、集中 治療室、24時間体制の救急対応に至るまで、幅広い医療ニーズに対応している。看護学校 を開校し、後任の育成に当たるほか、今後は高齢者医療に特化した病院や老人ホームの開 設を計画している。
2012年～ 継続中	モンゴル・ 日本モンゴル友 好病院	延べ 3,060人	【現地での参加者を含めた事業チーム構成】 AMDA モンゴル支部 【診療科】消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、内科、緩和ケア 【スタッフ数】16人（医師4人、看護師5人、その他スタッフ） 【これまで】 AMDA の海外支部が開設した病院としては最も新しい病院。開院当初より、 内科治療のほか、妊産婦検診や幼児への各種予防接種の実施、保育園の設置など、地域に おける母と子の医療ニーズにも対応してきた。緩和ケアにおいては、医療費を支払うこと のできない患者にも、極力支援の手を差し伸べている。モンゴル国立医科大学との連携や、 ISO取得に向けた動きなど、今後も更なる展開が期待されている。

平和構築

健康増進

教育支援

生活支援

教育支援

グローバル人財育成事業

AMDA 中学高校生会



バングラデシュの学生とのオンライン交流



ネパールの学生たちと交流する様子



防災訓練に参加する様子



AMDA 中学高校生会活動報告会

2023 年度 AMDA 兵庫 ネパール研修



ネパールの文化を体験する様子

こども食堂支援 プラットフォーム

さつまいもの収穫の様子



平和構築

健康増進

その他

インド・ブダガヤでの現地 NGO 学校への支援



教育支援

生活支援

寄贈されたバッグを持つ子どもたち

1 グローバル人財育成事業

■ AMDA 中学高校生会

◇実施場所： 岡山県岡山市

◇実施期間： 1995年～継続中

◇事業内容：

AMDA 中学高校生会（以下、中高生会）は 2023 年度、34 人のメンバーで活動した。

月に一度岡山市内にある AMDA 本部事務所にて定例会を実施。活動の計画や具体的な内容に関する話し合い、国内外の問題や、災害・防災に関する取り組みを行った。



① AMDA 平和構築プログラム『バングラデシュの学生とのオンライン交流会』

◇実施場所： きらめきプラザ、オンライン（バングラデシュ ダッカなど）

◇実施日： 2023年4月30日

◇参加者： 中高生会 10 人、バングラデシュ学生 10 人、バングラデシュ支部 2 人、
常原 拓真 / AMDA 中学高校生会チーフコーディネーター、AMDA 職員 4 人、ボランティアスタッフ 2 人

◇事業内容：

平和構築活動の一環としてバングラデシュの学生とのオンライン交流会を実施。AMDA 中学高校生会は、日本の防災について、黒潮町での交流会の経験を踏まえて発表。災害時に欠かせない、非常食についても紹介した。バングラデシュの学生は、自国のダウン症啓発キャンペーンに対する取り組みをプレゼンし、考えを共有。また、「夢と平和」についてのディスカッションや自国の文化紹介、歌の披露なども行った。

◇参加者の声：

「今回のプログラムを通して私が 1 番実感したことは、顔を合わせて "知る" ことの大切さです。インターネットでなんでも調べられるこの時代に、オンライン上ではありますが、顔を見合らし、直接言葉を交わしながら互いの考えを吸収する。会場には、ネット上の文章を読むだけでは、絶対に身につかないであろう想いが沢山溢れていました。」

「「夢と平和」についてのディスカッションでも、同じテーマで意見を交わしているとは思えないほど多角的な意見が多くありました。それぞれの価値観の違いを受け入れるために試行錯誤した今回の経験をこれからの活動に活かしていきたいです。ただ、意見を共有しただけでは、より良い社会の創造のきっかけにすぎないと思います。それをどんな形であれ世界に発信する力をつけて行動に移していきたいです。」

「多様性の平和的な共存のための「開かれた相互扶助」の概念は、過去 30 年間にわたり、常に AMDA の活動の軸にありました。AMDA インターナショナルの支部である、AMDA バングラデシュ支部は、地域社会における平和と宗教的な調和を確保するための平和構築プログラムを今後も実施していきたいと思います。」（AMDA バングラデシュ支部事務局長 ラザックさん）

② 2023 年度 AMDA 中学高校生会ネパール研修

◇実施場所： カトマンズ市、ダマック市、パタン市

◇実施日： 2023年8月12日～17日

◇参加者： 大谷愛莉 / AMDA 中学高校生会メンバー、假谷采永 / AMDA 中学高校生会メンバー、あるちやな・ジョシ / 調整員 / AMDA 職員

◇現地での参加者含めた事業チーム構成：

AMDA ネパール、AMDA ダマック病院、AMDA 保健医療学院（AMDA Institute of Health Science）

◇事業内容：

ネパールでの研修は、現地の学生や住民との交流、医療現場の見学、看護学生や医療者との交流、日本文化の紹介など、実際に肌で異文化を感じる機会を提供し、次世代教育に力を注ぐことを目的としている。今回の参加者 2 人は、カトマ

ンズの私立高校に通う学生との交流、AMDA ダマック病院での産婦人科病棟及び内視鏡検査室の見学、ブータン避難者やキャンプで支援活動を行っている若者グループとの対話、AMDA 保健医療学院で勉強している看護学生との交流などを行い、楽しみながらも多様な気づきを得ることができた。

◇参加者の声：

「今回の研修で私は、以前より興味があった防災に着目し現地の方と交流を行いました。私立学生や看護学生と情報を共有する中で、ネパールで行われている防災の今を知り、ただ日本の防災を広めるだけでは不十分であることを学びました。この研修は私の将来に繋がること間違いのないと思います。」

「今回のネパール研修では、AMDA ネパール支部が運営する病院を訪問し、看護学生や医療従事者の方々と交流しました。更に、現地の高校生や職業訓練場の女性の方々と交流を行い、お互いの国の文化の紹介をしたり、世界遺産を訪れたり肌で異文化を感じる機会となりました。」



③ AMDA 中学高校生と高知県黒潮町の中学生、高校生の交流事業

◇実施場所： 高知県幡多郡黒潮町

◇実施日： 2023年9月2日～3日

◇参加者： 中高生会7人、常原 拓真 / AMDA 中学高校生会チーフコーディネーター、AMDA 職員3人

◇事業内容：

2017年から始まったこの交流会は、毎年実施され、今年で7回目になる。今回、AMDA 中学高校生会のメンバーは「防災食」と「海外の防災意識と被災時の在・訪日外国人の避難」について、黒潮町の中学・高校の生徒さんは、それぞれの学校で行っている「防災訓練・防災活動」についてプレゼンを行った。大方高校独自の避難所運営ゲーム“HUG”を4つのグループに分かれて行い、避難所の運営についても学んだ。交流会後、災害を想定した野外炊飯でアルミ缶を使ったカレーの調理にも挑戦した。2日目は、黒潮町で町民一斉の防災訓練が行われAMDA 中学高校生会のメンバーも旅行中に災害に巻き込まれた患者役として、伊与喜幼稚園で行われた防災訓練に参加した。災害時、医療救護所として利用されることを想定し、消防団、保健師、住民ボランティアの方と共にトリアージから搬送までの訓練を行った。岡山の中学生、高校生の防災意識向上につながれたと実感している。

◇参加者の声：

「黒潮町の学生の防災意識の高さに驚いた」

「避難の際、住民の不安を軽減するためにも声掛けが重要だと学んだ」



④ AMDA 中学高校生会 活動報告会 2023

◇実施場所： オルガホール

◇実施日： 2023年10月22日

◇参加者： 中高生会10人、聴講者20人

◇事業内容：

8月に行われた『ネパール研修』と、9月に実施された『高知県黒潮町の中学生・高校生との防災をテーマにした交流会』について報告会を開催した。『ネパール研修』についての報告では、「防災の違いを学ぶ」をテーマに現地の学生と交流を行ったことや、住む場所や経済状況によって“知識の格差や不平等”が生じている現状を打開し、今後“BOUSAI”として国際的に広く浸透させるためにはどうすればよいかについて発表した。『高知県黒潮町の中学生・高校生との防災をテーマにした交流会』についての報告では、黒潮町内一斉防災訓練で体験した、トリアージや負傷者の搬送についてクイズ形式で紹介した。また、実際に現地で行った黒潮町立大方高校独自の避難所運営ゲーム“HUG”も聴衆を交えて行った。

会場には、AMDA 中学高校生会のメンバーが避難訓練についてまとめた新聞や活動中の写真も展示した。



2 こども食堂支援プラットフォーム

■ AMDA こども食堂支援プラットフォーム

◇実施場所： 岡山市内

◇実施時期： 通年実施

◇活動内容：

2017年12月「AMDA こども食堂支援プラットフォーム」を設立し2023年度も支援を継続した。こどもたちが、食に興味・関心をもち体験を通して意欲形成につなげる活動とした。

① グンゼの肌着配布

◇実施場所： AMDA 事務所にて配布

◇実施時期： 2024年3月

◇受益者数： こども食堂3団体

◇受益者の声：子育て家庭に渡し、保護者からは成長期のこどもにあうサイズを身に着けることができ喜ばれた。

◇活動内容：

グンゼ株式会社ラブアース倶楽部様から肌着2枚組240組を希望先のこども食堂に提供した。小学校低学年くらいのこどものサイズは、枚数も必要なため好評だった。

② お米と鯖缶詰、カロリーメイトの配布

◇実施場所： AMDA 事務所にて配布

◇実施時期： 2023年11月、2024年3月の2回

◇受益者数： こども食堂8団体

◇受益者の声：

「お米が一番ありがたいです。お米をたくさん食べるのでものすごく助かります。食品全般が値上がりしているのでも助かります。缶詰は、すぐ食べられるものなので重宝してます。」

◇活動内容：

年間で900kgの玄米をこども食堂に寄贈した。

こども食堂のうちの一つは子ども48人とお母さん、スタッフ合わせて約80人の参加でわいわい楽しく食事した。こども食堂に当日参加できない子には精米したお米5合ずつ渡した。魚の缶詰とカロリーメイトは個別に配布し、鯖缶の野菜和え物が好評だった。

③ 連合岡山のとりまとめにより、電力総連、自治労岡山県本部、日本教職員組合

岡山県協議会の3つの組織から日用品、食品、お米が寄贈された。

岡山こども食堂支援センターが受け取り、シャンプー、石鹸、タオル、トイレットペーパー、洗剤、マスク、紙おむつ、パスタ、お菓子、レトルト食品など必要な生活用品を各こども食堂に提供した。

④ 四国銀行「学び応援債 ～未来への絆～」による調味料の寄贈

2023年8月にこども食堂10団体に調味料を配布した。これは、四国銀行が受け取る私募債で発行企業の株式会社アネックス様より私募債手数料の一部をAMDAに物品でご寄贈いただいたもの。

こども食堂運営者からの声は、「今月のメニューはオムライスとイワシフライ&からあげ、こどもたちに大人気のケチャップご飯をオムライスにイワシフライにはタルタルソースを添えて。食材、光熱費の高騰化により献立も苦労しています。このたびは、調味料を提供していただきありがとうございました。」

⑤ 御津農場 サツマイモの収穫イベント

9月に御津農場（岡山市北区御津）に植えた150株のサツマイモの収穫イベントを実施した。こども食堂に参加している家族、こども食堂運営者、IPU環太平洋大学の学生たちなど総勢42人が参加し、掘ったサツマイモを焼き芋にし、猪鍋、イノシシ肉のバーベキューをおいしく味わった。食の大切さやみんなで食べることの楽しさを感じる実りある会となった。大学生とサッカーやダンスのレクリエーションをするなどの交流の場になった。

⑥ 11月に岡山県労働者福祉協議会から缶詰 384個（鯖缶）を寄贈

子ども食堂4団体が受け取った。

子ども食堂運営者の声、「子ども食堂でタンパク質の確保が大変なのでありがたい。」

⑦ ハンディブレンダー、ドライヤー、レンジ容器他の寄贈

岡山県関係職員労働組合連合会からいただいたもので、岡山子ども食堂支援センターに提供し、ハンディブレンダー、レンジ容器は子ども食堂の調理器具として活用する。



3 その他

■インド・ブッダガヤで現地の NGO 学校への支援

◇実施場所： ビハール州ブッダガヤ

◇実施日： 2023年4月7日

◇派遣者： AMDA ピースクリニックスタッフ

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

AMDA ピースクリニックのスタッフ

◇受益者数： 392人の生徒に教科書、文房具、カバン配布

◇受益者の声：

「昨年も AMDA の支援で教科書や文房具をいただきました。今年はカバンもいただき通学にとっても便利です。心より感謝申し上げます。」

「この度は教科書、文房具、カバンをいただき、ありがとうございます。生徒全員が感謝しています。我々はとても貧しい家庭で育てており、AMDA からの支援がなければ勉強に必要な教科書などを購入できないため、学校の勉強を続けることができなかつたと思います。ご支援をいただいたおかげで勉強に励むことができました。学校の代表として AMDA の皆さんに感謝の気持ちを伝えたいと思います。」

◇事業内容：

AMDA は、昨年よりエコラス・デ・ラ・テラ福祉団体附属のブッダガヤにある学校に教科書の支援などを行っている。2020年新型コロナウイルス感染拡大の影響により、世界的に経済活動自体が縮小、雇用や所得が減少した。同団体を長年に渡り支えてきたスイス・ジュネーブの関係者も影響を受け、支援の規模を縮小せざるを得ない状況にあった。学校の職員や教師の給与や他の維持管理費に関しては今まで通り支援が続いているものの、生徒が使う文房具や教科書などの費用に関するめどは立っていない状況だった。

そこで、同団体のブッダガヤ支部の事務局長のラゼッシュさんから AMDA へ支援の依頼があった。AMDA と日本インド友好医療センターはブッダガヤにあるサラスワティ・シス・ニケタン学校で勉強している生徒へ教科書や文房具を支援することにした。

2023年4月に AMDA ピースクリニックのスタッフも参加し、同校で勉強している392人の生徒に教科書、文房具、カバンの贈呈式を行った。事務局長のラゼッシュ氏から、「今回の AMDA からのご支援、本当に助かりました。ありがとうございました。この学校で勉強している生徒たちのほとんどが貧しい家庭の子供たちなので教科書、文房具などを購入できず困っていました。生徒たちもとても喜んでおり、今後も一生懸命に勉強に励んでくれると信じています。ご支援をしていただきました AMDA の皆様に心より感謝申し上げます。」と感謝の気持ちを話されていた。



1 有機農業事業

■ AMDA フードプログラム

- ◇実施場所： インドネシア・マリノ村
- ◇実施期間： 2012年4月1日～継続中
- ◇事業内容：

「食は命の源」をモットーに推進してきた『AMDA フードプログラム』。その中核を担ってきたインドネシア・南スラウェシ州にある AMDA マリノ農場では、有機農法による農作物の栽培を行っている。2024年に開設10周年を迎える同農場は、生産者、消費者の双方において、有機農業に対する認知度を着実に高めてきた。

AMDA マリノ農場

- ◇実施場所： インドネシア・マリノ村
- ◇実施期間： 2014年～継続中
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

現地農家（常時15世帯程度）、AMDA インドネシア支部

- ◇事業内容：

岡山県新庄村で研修を受けた2人のインドネシア人農家によって設立された AMDA マリノ農場。日本で習得した有機農法を現地の伝統的な農業に取り入れ、稲作から野菜作りまで手掛けている。

近年は既存の農業から有機農業に転換する現地農家も増え、また都市部におけるオーガニック志向の高まりが少しずつ有機作物の需要を後押ししている。特に、主力商品である赤米については、これまで外国人が利用するスーパーマーケットや現地の日本料理店などを対象に売り込みを行ってきた。今後は、健康志向の高まりにより、購買層の拡大が期待される。現地担当者は、「生産者サイドの体制はある程度整ったので、次は如何にこれを商業ベースに乗せるかが課題」と語る。



2 その他

■ インド・ブッダガヤでの食事支援

- ◇実施場所： ビハール州ブッタガヤ
- ◇実施時期： 2023年1月～継続中
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

AMDA ピースクリニックスタッフ含むボランティア約10人、AMDA 本部、日本インド友好医療センタートラスト

- ◇受益者数： 毎週60人から120人以上

- ◇受益者の声：

「自分たちでつくったものを料理として提供できたことはとても嬉しかった。」

「おいしい、ありがとう！」



「支援を必要とする方に喜んでもらえる活動ができることが嬉しく、活動に誇りを持っている」

◇事業内容：

AMDA は 2009 年からインド、ビハール州のブッダガヤで、AMDA ピースクリニック（以下 APC）で母子保健事業を実施している。ビハール州はインドでも最貧州の一つであり、低カーストで貧しい人々がたくさん暮らしている。

AMDA では、毎週火曜日に、収入が安定せず生活に困窮している方々を対象に食事の提供を行っている。

2022 年からダンプール村にある現地協力団体の土地でダル豆や野菜などを栽培しており、その土地で収穫した旬の野菜を使ったカレーやダルカレーなどを提供している。

3 月下旬以降、連日の酷暑の影響で食欲がなくなるという問題が発生した。暑い夏を乗り越えるためにビハール州では、一般家庭でよく作られているサットゥと呼ばれる飲み物が飲まれている。これは、ひよこ豆を炒って粉にしたものに、レモン、胡椒、青唐辛子を混ぜ、水で薄めてジュースにしたもので、作り方も簡単のため、炎天下で活動する調理スタッフやボランティアの負担もだいぶ減る。以上のことから、4 月から 7 月の間は、サットゥや季節の果物のジュースを中心に提供し、支援の時間を午前 10 時に早めた。提供する際には、現地スタッフが「熱中症、脱水症状にならないようにしっかりと水分補給をするように」とマイクでよびかけながら配布した。

■インド・ブッダガヤ「お年寄りの家」への支援

◇実施場所： ビハール州ブッダガヤ

◇実施時期： 2023 年 4 月～2023 年 12 月

◇派遣者： 菅波 茂 / 医師 / AMDA 理事長、あるちやな ジョシ / 調整員 / AMDA 職員、難波 妙 / 調整員 / AMDA 理事（11 月 20 日～28 日）

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

「お年寄りの家」ヴェーダ ラグヴェディニ、AMDA 本部、日本インド友好医療センタートラスト

◇受益者数： 「お年寄りの家」に居住する 22 人

◇受益者の声

「牛に餌をやったり、マッサージをしてあげたりすることが気分転換になっている」

「毎日牛乳が食事と一緒に提供されるのでとても嬉しい、新鮮な牛乳は美味しいです」

「今年は牛が増え、牛小屋を必要だと思っていたところ、ある家族から牛小屋のトタン板を寄付され、商人の方から木材やほかの機材をいただき、専門の方をお願いし牛小屋を建設しました。夜は鍵をできるようになったので泥棒にとられる心配もなく、日中も、厳しい暑さから牛を守れて本当に助かっています。今後、もう少し牛を増やし、お年寄りの家の運営は寄付金だけに頼らず、自分たちで運営できるようにしたいです。」（ヴェーダ氏）

◇事業内容：

AMDA のピースクリニックの元スタッフであるヴェーダ氏は南インド出身であり、ご主人を亡くされた後、もっとも貧しい州として知られるビハール州ブッダガヤに移り住み、残りの人生は貧しい人々のために捧げたいと考え、「お年寄りの家」を設立した。

昨年支援をしたニワトリ（5 羽程度）、アヒル（5 羽）は放し飼いのため猫などに食べられてしまい、残りのニワトリやアヒルは極端に寒い冬と酷暑を乗り切れなかったため調理され、お年寄りの方々に配った。

また、現地の方からも 2 頭の牛を寄付していただき、AMDA からの支援の牛も合わせて、現在は 11 頭の牛を飼っている。牛からとれる牛乳は近くの市場で販売。売上金は生活用品、薬代など日常生活に必要なものや、運営費用に使用している。また、毎日新鮮な牛乳は、お年寄りの方々に提供されている。



■インド・ブッダガヤ井戸建設事業

◇実施場所： ビハール州ブッダガヤ

◇実施時期： 2023年10月～2024年2月

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成：

AMDA ピースクリニックスタッフ約50人、日本インド友好医療センタートラスト

◇受益者数： 延べ500人

◇受益者の声： 「ダンプールは、土地はたくさんあり、たくさんの農作物を作れますが、去年は乾季に水がなく、雨季を頼りに農業をしていたため、良いものをあまり作ることが出ませんでした。新しい井戸が完成し、今年は水が豊富にあるので、専門家の知識を借りてどんどん良い農作物を作っていきたいと思います」

◇事業内容：

AMDAは2009年からインド、ビハール州ブッダガヤにAMDA ピースクリニック（APC）を開院し、2014年から母子保健事業を実施している。ビハール州はインドの中でも最も貧しい州として知られており、

2023年1月からブッダガヤ周辺に住む貧しい人々を対象に週に1回の食事支援を行っている。AMDAの関連団体である日本インド友好医療センタートラストがある土地で、季節ごとに豆（インドで一般的に使われているレンズ豆）、夏野菜、冬野菜などを栽培しブッダガヤで実施している食事支援の料理に使用したり、AMDA ピースクリニックの患者やその家族、周辺の村に住む方々に配ったりしている。ビハール州では2023年は例年より遅めの8月に雨季が始まり、井戸の水位も下がってしまったため、それまで使用していた家庭用のモーターで水あげることが不可能となり、農作業はできなくなった。

去年は、雨季が9月まで続き、村の道が舗装されておらず、泥だらけの道では工事用車両が入れないため、工事は10月中旬から開始することになった。工事中に23メートルのところと33メートルのところで大きな石にぶつかったため、業者が大きな石割機を導入し、36メートルから40メートルのところで見つかった。今回は46メートルまで掘り、きれいな水が出るようになった。また、インドは停電が多く、モーターを使って水を引き上げられない場合に備えて、ハンドポンプも設置し、停電の間でさえも水を使えるようになった。その後、雨や盗難などから守るため、井戸用の部屋を建設し、工事を完了した。また、必要に応じて村人も水を使用できるように水道を設置した。

今回設置した井戸は、夏野菜の苗づくりや作物栽培に利用し、収穫したものを食事支援などに還元する予定である。



連携協力協定調印

■海外連携協力協定調印

・モンゴル国立中央鉄道病院

2023年11月10日

特定非営利活動法人アムダ (AMDA) 団体概要

所在地 〒700-0013 岡山県岡山市北区伊福町3丁目31-1
設立年月日 1984年8月
国連経済社会理事会「総合協議資格」取得 2006年
認定NPO法人に認証 2013年5月8日付

AMDA グループ構成団体

特定非営利活動法人アムダ: AMDA
AMDA インターナショナル (任意団体)
特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター
アムダ兵庫 (任意団体)

海外活動 緊急医療支援、難民医療支援、復興支援、合同医療ミッション、スポーツ親善交流、グローバル人材育成、フードプログラム、セミナー開催、など

活動国 日本、ネパール、インドネシア、モンゴル、インド、ハイチ、ルワンダ、フィリピン、バングラデシュ、カンボジア、ホンジュラス、ハンガリー、トルコ、モロッコ 他

国内活動 緊急医療支援、復興支援、フードプログラム、こども食堂支援、出張講演、大学講義受託、活動報告会・セミナー開催、AMDA 中学高校生会、イベント参加、南海トラフ災害対応医療チーム派遣準備 など

AMDA 支部 沖縄支部、神奈川支部

AMDA クラブ 高知、福山、竹原、神女 (神戸女子大学) 各クラブ

スタッフ 常勤7人 非常勤4人 派遣5人

会員数 583人

ER ネットワーク登録数 688人

2024年5月31日現在

特定非営利活動法人 アムダ (AMDA) 役員

理事長	佐藤 拓史	医師
副理事長	難波 妙	特定非営利活動法人アムダ
理事	野島 治	元倉敷市教育委員会 嘱託啓発指導員・小学校校長
理事	頼藤 貴志	医師 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 疫学・衛生学分野教授
監事	広田 眞美	医師 医療法人和仁会 福岡和仁会病院

2024年5月31日現在

(理事名 五十音順)

国内の動き

■大学・専門学校等講義（実施日順）

国立病院機構岡山医療センター附属岡山看護助産学校、ノートルダム清心女子大学、福山市医師会看護専門学校、朝日医療大学校、学校法人加計学園玉野総合医療専門学校、相生市看護専門学校、公立大学法人岡山県立大学大学院、国立大学法人岡山大学、学校法人ベル学園岡山医療福祉専門学校、学校法人大阪滋慶学園美作市スポーツ医療看護専門学校、学校法人旭川荘厚生専門学院

■講演（実施日順）

岡山ワイズメンズクラブ、創志学園高等学校、岡山市立御津中学校、一般財団法人岡山県医療ソーシャルワーカー協会、一般社団法人日本小児神経学会、中国・四国ストーマリハビリテーション研究会、岡山ストーマリハビリテーション研究会、岡山県立岡山一宮高等学校、宗教法人大本本部、岡山市立津島小学校、日本国際連合協会関西本部、金光教東京センター、天台宗四国教区宗務所、吉備中央町教育委員会、岡山市立牧石小学校、倉敷モラロジー事務所、赤磐市吉井地区民生委員児童委員協議会、岡山県立倉敷中央高等学校、一般社団法人岡山県言語聴覚士会地域医療保険福祉部会、総社市立総社西中学校、岡山後楽館高等学校、岡山市立江西小学校、I P U環太平洋大学、津山市立北陵中学校、徳島県立富岡東高等学校羽ノ浦校、岡山県立津山東高等学校、公益社団法人岡山県鍼灸師会、公立大学法人新見公立大学、岡山市立大野小学校、岡山市立石井小学校、地域連携の会～絆～、岡山県立岡山操山中学校、日本災害医学会学生会部会 (DMAS) 中国支部、宗教法人大本本部青年部

■研修受け入れ

なし

■インターンシップ受け入れ

- ・那須 千花（2023年10月～）

■主催イベント

- ・御津サツマイモ収穫体験会（2023年9月23日）
- ・AMDA こども食堂支援プラットフォーム×岡山県労働者福祉協議会 贈呈式（2023年11月29日）
- ・ネパール研修（2023年8月、2024年2月）
- ・令和6年能登地震被災者緊急支援 募金活動（2024年1月12日）

■主な参加イベント

- ・連合岡山イベントフェスタ（2023年7月1日）
- ・総社市「平成30年7月豪雨災害五周年式典」（2023年7月6日）
- ・倉敷イオンイエローシートキャンペーン（2023年7月11日、9月11日、12月11日、2024年1月11日）
- ・岡山県立大学大学院公開講座（2023年7月15日）
- ・第3回日越国際シンポジウム（2023年7月21日）
- ・高知県黒潮町町内一斉避難訓練（2023年9月3日）
- ・おかやまコープフェスタ2023（2023年9月23日）
- ・国際貢献NGOフェア（2024年2月1日）
- ・RSKチャリティコンサート（2024年2月4日）
- ・総社市防災訓練（2024年3月9日）

会計報告

貸借対照表

2024年3月31日現在（単位：円）

資産の部		負債・正味財産の部	
【流動資産】		【流動負債】	
現金預金	444,517,783	未払金	3,725,315
棚卸資産	6,390,294	前受金	165,000
前払金	53,000	預り金	364,613
前払費用	312,800	流動負債計	4,254,928
仮払金	2,586,399		
立替金	7,391	負債合計	4,254,928
流動資産計	453,867,667	【正味財産】	
【固定資産】		前期繰越正味財産	544,963,937
有形固定資産	1,488,965	当期正味財産増減額	35,362,736
無形固定資産	106,167	正味財産計	580,326,673
投資その他の資産	129,118,802		
固定資産計	130,713,934	正味財産合計	580,326,673
資産合計	584,581,601	負債及び正味財産合計	584,581,601

活動計算書

2023年4月1日から2024年3月31日まで（単位：円）

【経常収益】			
受取会費		5,303,000	
受取寄附金		135,444,903	
受取助成金等		106,136,520	
事業収益		717,720	
その他収益		6,074,280	
経常収益計			253,676,423
【経常費用】			
【事業費】			
人件費		24,610,590	
その他経費		170,044,140	
事業費計			194,654,730
【管理費】			
人件費		13,096,461	
その他経費		10,562,496	
管理費計			23,658,957
経常費用計			218,313,687
当期経常増減額			35,362,736
税引前当期正味財産増減額			35,362,736
当期正味財産増減額			35,362,736
前期繰越正味財産額			544,963,937
次期繰越正味財産額			580,326,673



モロッコ地震被災者緊急支援活動